

Dell™ Lifecycle Controller Version 1.2

[概要](#)


[Unified Server Configurator および Lifecycle Controller を使用可能な Unified Server Configurator](#)


[Remote Service 機能](#)

[トラブルシューティングとよくあるお問い合わせ \(FAQ\)](#)

[用語集](#)

メモおよび注意

 **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** 注意は、手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。
© 2009 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標: Dell および DELL ロゴは Dell Inc. の商標です。Microsoft、Windows および Windows Server は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。Red Hat、Red Hat Linux および Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。SUSE は米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。Dell Inc. はデル以外の商標や社名に対する所有権を一切否認します。

2009 年 8 月

[目次に戻る](#)

トラブルシューティングとよくあるお問い合わせ(FAQ)

Dell™ Lifecycle Controller Version 1.2

- [エラーメッセージ](#)
- [よくあるお問い合わせ\(FAQ\)](#)

本項では、USC と USC - LCE で共通して表示されるエラーメッセージについて説明し、各エラーに対する解決策を提案します。また、USC と USC - LCE のユーザーからよく寄せられる質問の答えも記載しています。

エラーメッセージ

「[表 A-1](#)」では、USC と USC - LCE で共通して表示されるエラーメッセージについて説明し、各エラーに対する解決策を提案します。「[表 A-2](#)」では、USC で共通して表示されるエラーメッセージについて説明し、各エラーに対する解決策を提案します。「[表 A-3](#)」では、USC - LCE で共通して表示されるエラーメッセージについて説明し、各エラーに対する解決策を提案します。「[表 A-4](#)」では、Lifecycle Controller で共通して表示されるエラーメッセージについて説明し、各エラーに対する解決策を提案します。

表 A-1 USC と USC - LCE のエラーメッセージと解決策

エラーメッセージ	解決策
オペレーティングシステムをインストールする起動デバイスが見つかりません。	USCまたは USC - LCE がオペレーティングシステムをインストールできるデバイスを検出できません。下記のいずれかが、エラーの原因と考えられます。 <ul style="list-style-type: none">1 ドライブが正しく接続されていません。1 システム上で認識されるストレージコントローラが存在しません。1 BIOS で オンボード SATA コントローラが無効になっています。 この問題を解決するには、Exit and Reboot (終了および再起動) をクリックし、システムをシャットダウンします。次に、USC または USC - LCE を再び起動する前に、オペレーティングシステムをインストールできるデバイスが少なくとも 1 つ利用可能であることを確認してください。
ドライバファイルをコピーできません。	オペレーティングシステムをインストールするのに必要なドライバが破損しています。この問題を解決するには、プラットフォームアップデートを行ってください(「 プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート 」を参照)。
挿入されている OS メディアは無効です。	オペレーティングシステムのメディアが損傷または破損しているか、メディアを読み取るために使用しているオプティカルデバイスが正常に動作していません。
適用を試みているアップデートは、デル公認のアップデートではありません。	USC または USC - LCE が、システムのアップデートに使用された 1 つ以上の DPU がデル公認のアップデートではないことを検知しました。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、『Server Update Utility DVD』から DUP を使用してリポジトリを再び作成するか(「 ローカル USB デバイスの設定 」を参照)、別のリポジトリを指定してください。
USC の起動時に致命的なエラーが発生しました。システムが再起動する。	USC または USC - LCE の起動中に致命的なエラーが発生しました。システムは自動的に再起動し、再び USC または USC - LCE の起動を試みます。再起動後もこの問題が続く場合は、「 USC の修復 」または「 USC - LCE の修復 」を参照してください。
ネットワークが設定されていません。	USC または USC - LCE が正常に動作するには、ネットワークが設定されている必要があります。 ネットワーク設定 ページから USC または USC - LCE ネットワーク設定を設定する方法については、「 USC 設定ウィザードの使用 」を参照してください。
新しい日時を設定できません。	USC または USC - LCE はシステム日時を変更できませんでした。この問題を解決するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none">1 システムを再起動します。2. <F10> キーを押して、USC または USC - LCE を再起動してください。3. 日付および時間の設定を再び変更します。
無効なプロキシサーバー	FTP サーバーにアクセスするために指定したプロキシサーバーが無効です。詳細については、「 ダウンロード方法の選択 」を参照してください。
最大 40 個の 16 進数で有効な暗号化キーを入力してください。	40 個以下の 16 進数で有効な暗号化キーを入力します。有効な文字は、0-9、a-f、および A-F の範囲となります。
有効な iDRAC IPv4 アドレスを入力してください。	0.0.0.0 から 255.255.255.255 の間の有効な iDRAC IPv4 プロトコルアドレスを入力します。
有効なサブネットマスクを入力してください。	0.0.0.0 から 255.255.255.255 の間の有効なサブネットマスクを入力します。
有効なデフォルトゲートウェイアドレスを入力してください。	0.0.0.0 から 255.255.255.255 の間の有効なデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
有効な IPv4 DNS サーバー 1 アドレスを入力してください。	0.0.0.0 から 255.255.255.255 の間の有効な IPv4 DNS サーバー 1 アドレスを入力します。
有効な IPv4 DNS サーバー 2 アドレスを入力してください。	0.0.0.0 から 255.255.255.255 の間の有効な IPv4 DNS サーバー 2 アドレスを入力します。
アカウントアクセスの変更に失敗しました。複数のユーザーアカウントが必要です。詳細については、ヘルプを参照してください。	別のユーザーアカウントを作成する必要があります。詳細については、画面の右上隅の ヘルプ ボタンをクリックしてください。
有効なユーザー名を入力してください。	有効なユーザー名を入力する必要があります。他の iDRAC 設定ツールとの互換性を保つために、ユーザー名の文字列に数字(0-9)、英字(a-z、A-Z)およびハイフン(-)のみを使用することを推奨します。
有効なパスワードを入力してください。	有効なパスワードを入力する必要があります。他の iDRAC 設定ツールとの互換性を保つために、パスワードの文字列に数字(0-9)、英字(a-z、A-Z)およびハイフン(-)のみを使用することを推奨します。
有効な確認パスワードを入力してください。	新しいパスワードおよび確認パスワードを再入力する必要があります。両パスワードが一致するようにしてください。

表 A-2 USC のエラーメッセージと解決策

エラーメッセージ	解決策
----------	-----

エラーメッセージ	解決策
OS インストールメディアを読み取ることができるデバイスが見つかりません。	<p>USC がオペレーティングシステムメディアを読み取るためのデバイスを検出できません。下記のいずれかが、エラーの原因と考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 システムで利用可能なオプティカルデバイスが存在しません。システムをシャットダウンし、SATA オプティカルデバイスまたは USB オプティカルデバイスを取り付けます。 1 オプティカルデバイスが存在する場合は、正しく接続されていない可能性があります。デバイスケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 1 オプティカルデバイスが存在する場合は、BIOS で無効になっています。システムを再起動し、BIOS セットアップユーティリティにアクセスして、対象のオプティカルデバイスの SATA ポートを有効にします。
アップデートのソースとして選択したりリポジトリが整合性チェックに失敗しました。	このエラーは、一時的なネットワークの問題によって発生した可能性があります。後で、アップデートリポジトリへの接続を再び試みてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再び作成するか(「 ローカル FTP サーバーの設定 」を参照)、別のリポジトリを指定してください。

表 A-3 USC - LCE のエラーメッセージと解決策

エラーメッセージ	解決策
ドライババックが見つかりません。 または OS リストの作成エラー	<p>USC - LCE がオペレーティングシステムをインストールするのに必要なドライバを見つけることができません。この問題を解決するには、プラットフォームアップデートを行ってください(「プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート」を参照)。</p>
OS インストールメディアを読み取ることができるデバイスが見つかりません。	<p>USC - LCE がオペレーティングシステムメディアを読み取るためのデバイスを検出できません。下記のいずれかが、エラーの原因と考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 システムで利用可能なオプティカルデバイスが存在しません。システムをシャットダウンし、SATA オプティカルデバイスまたは USB オプティカルデバイスを取り付けます。 1 オプティカルデバイスが存在する場合は、正しく接続されていない可能性があります。デバイスケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 1 オプティカルデバイスが存在する場合は、BIOS で無効になっています。システムを再起動し、BIOS セットアップユーティリティにアクセスして、対象のオプティカルデバイスの SATA ポートを有効にします。 1 iDRAC 仮想メディアが無効になっています。詳細については、support.dell.com/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) Enterprise ユーザーズガイド』を参照してください。
アップデートのソースとして選択したりリポジトリが整合性チェックに失敗しました。	このエラーは、一時的なネットワークの問題によって発生した可能性があります。後で、アップデートリポジトリへの接続を再び試みてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか(「 ローカル USB デバイスの設定 」を参照)、別のリポジトリを指定してください。
カタログファイルの解凍に失敗しました。	現在インストールされているバージョンと最新の利用可能なバージョンを比較するためにダウンロードしたカタログを解凍できません。このエラーは、一時的なネットワークの問題によって発生した可能性があります。後で、アップデートリポジトリへの接続を再び試みてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再び作成するか(「 ローカル USB デバイスの設定 」を参照)、別のリポジトリを指定してください。
カタログアーカイブのファイルシークに失敗しました。	現在インストールされているバージョンと最新の利用可能なバージョンを比較するためにダウンロードしたカタログは破損しています。このエラーは、一時的なネットワークの問題によって発生した可能性があります。後で、アップデートリポジトリへの接続を再び試みてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか(「 ローカル USB デバイスの設定 」を参照)、別のリポジトリを指定してください。
カタログ証明ファイルの FTP ダウンロードに失敗しました。	現在インストールされているバージョンと最新の利用可能なバージョンを比較するためにダウンロードしたカタログはデジタル署名の検証チェックに失敗しました。このエラーは、一時的なネットワークの問題によって発生した可能性があります。後で、アップデートリポジトリへの接続を再び試みてください。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか(「 ローカル USB デバイスの設定 」を参照)、別のリポジトリを指定してください。
ホスト名の名前解決ができません。	<p>このエラーは、次のいずれかに起因している可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 プラットフォームアップデート FTP サーバーに無効な名前を指定しました。「ダウンロード方法の選択」を参照してください。 1 ネットワーク設定 ページで指定されたドメインネームサーバー (DNS) が無効です。「USC 設定ウィザードの使用」を参照してください。
DUP が破損しています。	USC - LCE は、ご利用のシステムのアップデートに使用された 1 つ以上の DUP が破損していることを検出しました。アップデートリポジトリにローカル USB デバイスを使用しても、この問題が続く場合は、リポジトリを再作成するか(「 ローカル USB デバイスの設定 」を参照)、別のリポジトリを指定してください。
この iDRAC のために有効な iDRAC IPv6 アドレスを入力してください。	有効な iDRAC IPv6 ネットワークアドレスを入力します。「 IPv6 設定 」を参照してください。
1 から 128 の範囲で、IPv6 ネットワークアドレスプレフィックス長を指定してください。	ネットワークにおける IPv6 アドレスプレフィックスの有意ビット数を入力します。プレフィックス長は、1 から 128 にする必要があります。「 IPv6 設定 」を参照してください。
IPv6 デフォルトゲートウェイのアドレスを入力してください。	IPv6 デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。「 IPv6 設定 」を参照してください。
有効な IPv6 DNS サーバー 1 アドレスを入力してください。	有効な IPv6 DNS サーバー 1 アドレスを入力します。「 IPv6 設定 」を参照してください。
有効な IPv6 DNS サーバー 2 アドレスを入力してください。	有効な IPv6 DNS サーバー 2 アドレスを入力します。「 IPv6 設定 」を参照してください。
最大 63 文字の有効な iDRAC 名を入力してください。	63 文字以内の有効な iDRAC 名を入力します。
最大 64 文字の有効なドメイン名を入力してください。	64 文字以内の有効なドメイン名を入力します。
最大 62 文字の有効なホスト名を入力してください。	62 文字以内の有効なホスト名を入力します。
1 から 4094 の範囲で値を入力してください。	1 から 4094 の範囲で VLAN ID を入力します。「 詳細 LAN 設定 」を参照してください。
0 から 7 の範囲で値を入力してください。	0 から 7 の範囲で VLAN ID の優先度の値を入力します。「 詳細 LAN 設定 」を参照してください。
iDRAC 通信エラー。システムの電源をオフにし、電源プラグを抜いて、5 秒待って	iDRAC との通信に失敗しました。この問題を解決するには、次の手順を実行します。

から、再び電源プラグを差し込んで電源をオンにしてください。	<ol style="list-style-type: none"> 1. システムの電源をオフにし、電源プラグを抜きます。 2. 5 秒待ちます。 3. 電源プラグをシステムに差し込み、電源をオンにします。
iDRAC ハードエラー。システムの電源をオフにし、電源プラグを抜いて、5 秒待ってから、再び電源プラグを差し込んで電源をオンにしてください。	<p>iDRAC との接続に失敗しました。この問題を解決するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムの電源をオフにし、電源プラグを抜きます。 2. 5 秒待ちます。 3. 電源プラグをシステムに差し込み、電源をオンにします。
RAID 設定に失敗しました。	<p>USC - LCE が RAID 設定の作成に失敗しました。この問題を解決するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムを再起動します。 2. <F10> キーを押して、USC - LCE を再起動してください。 3. RAID 設定の作成を再び試みます。
一般エラー	<p>USC - LCE が RAID 設定を作成しているときに、不明なエラーが発生しました。この問題を解決するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムを再起動します。 2. <F10> キーを押して、USC - LCE を再起動してください。 3. RAID 設定の作成を再び試みます。
サポートされる RAID コントローラ上で十分な物理ディスクがありません。ウィザードが終了します。	RAID 設定をサポートするための十分な数のディスクがありません。物理ディスクを接続し、 RAID 設定 ウィザードを再起動する必要があります。
現在のスパンに必要な物理ディスクの数を 選択してください。	現在の RAID スパンに選択した物理ディスクの数は間違っています。スパンの選択項目を確認し、正しい数を入力してください。
この仮想ディスクに物理ディスクが選択されていません。	仮想ディスクに選択した物理ディスクの数は、十分ではありません。現在の RAID レベルに必要な最小物理ディスク数を確認し、それ以上の物理ディスク数を選択してください。
システムにコントローラが存在しません。	<p>ご利用のシステムに RAID コントローラが存在しません。この問題を解決するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2 つ以上の物理ディスクを含むサポートされた RAID コントローラを追加します。 2. <F10> キーを押して、USC - LCE を再起動してください。 3. RAID 設定ウィザードを再起動します。
有効な RAID レベルが見つかりません。	システムに接続されている物理ディスクの数は、選択した RAID レベルに対して十分ではありません。さらに物理ディスクを接続し、再試行してください。
エラーが発生しました。1 つ以上の設定が保存されていない可能性があります。	<p>ハードウェアの詳細設定を変更中にエラーが発生しました。この問題を解決するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムを再起動します。 2. <F10> キーを押して、USC - LCE を再起動してください。 3. 設定を再び変更します。
エラーが発生しました。1 つ以上の設定が復元されない可能性があります。	<p>ハードウェアの詳細設定を復元中にエラーが発生しました。この問題を解決するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムを再起動します。 2. <F10> キーを押して、USC - LCE を再起動してください。 3. 詳細設定 画面を再び開きます。
この機能は、この設定ではサポートされていません。	ご利用のモジュラーシステムは、選択した機能をサポートしていません。

表 A-4 Lifecycle Controller のエラーメッセージと解決策

エラーメッセージ	解決策
一般エラー	<p>エラーが発生しました。現時点で他の詳細は利用できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コマンドを再実行してください。 2. iDRAC をリセットし、コマンドを実行してください。
Lifecycle Controller は、別のプロセスが使用中です。	<p>Lifecycle Controller は、現在別のプロセスによりロックされています。別のコマンドを実行する前に、プロセスが完了していることを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. しばらくしてコマンドを再実行してください。 2. USC または DUP が動作中でないことを確認してください。 3. iDRAC をリセットし、コマンドを実行してください。
Lifecycle Controller の Driver Pack パーティションにアクセスできません。	<p>Lifecycle Controller の Driver Pack パーティションにアクセスできません。Lifecycle Controller は損壊している可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. iDRAC をリセットし、コマンドを実行してください。
Lifecycle Controller に Driver Pack が見つかりません。	<p>Lifecycle Controller に Driver Pack がありません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. USC または DUP を使用して Driver Pack をアップデートし、コマンドを再実行してください。
メモリーを割り当てることができません。	タスクを実行するためにメモリーをダイナミックに割り当てることができません。

	1. iDRAC をリセットし、コマンドを実行してください。
Driver Pack には、選択したオペレーティングシステム用のドライバーがありません。	Lifecycle Controller は、選択したオペレーティングシステム用のドライバーを備えていません。インストールには、オペレーティングシステムメディア上に存在する固有ドライバーを使用する必要があります。
選択したオペレーティングシステム用のドライバーをコピーするための USB デバイスを生成できません。	選択したオペレーティングシステム用のドライバーをコピーするための USB デバイスを生成できません。iDRAC は正常に動作していない可能性があります。 1. iDRAC をリセットし、コマンドを再実行してください。
選択したオペレーティングシステム用のドライバーをコピーするための USB デバイスをマウントできません。	選択したオペレーティングシステム用のドライバーをコピーするための新しく生成された USB デバイスにアクセスできません。iDRAC は正常に動作していない可能性があります。 1. iDRAC をリセットし、コマンドを再実行してください。
オペレーティングシステムドライバーを備えた USB デバイスをホストシステムに明示することができません。	(選択したオペレーティングシステム用のドライバーを持つ) 新しく作成された USB デバイスをホストサーバーに明示することができません。iDRAC は正常に動作していない可能性があります。 1. iDRAC をリセットし、コマンドを再実行してください。
ネットワーク共有のマウントに失敗しました - ユーザー名またはパスワードが間違っています。	コマンドに指定した証明書を使用してネットワーク共有をマウントすることができません。ユーザー名またはパスワードが間違っています。 1. 正しいユーザー名とパスワードでコマンドを再実行してください。
ネットワーク共有のマウントに失敗しました - IP アドレスまたは共有名が間違っています。	コマンドに指定した証明書を使用してネットワーク共有をマウントすることができません。IP アドレスまたは共有名が間違っています。 1. 正しい IP アドレスと共有名でコマンドを再実行してください。
内部デバイスとして ISO イメージをホストシステムに明示することに失敗しました。	内部 CD デバイスとして ISO イメージをホストシステムに明示することができません。ISO ファイルがもはや存在していません。ネットワークエラーが ISO ファイルへのアクセスを妨げています、あるいは iDRAC が正しく動作していない可能性があります。 1. iDRAC をリセットし、コマンドを再実行してください。
ネットワーク共有ポイントに ISO イメージを見つけることができません。	ネットワーク共有に指定した ISO ファイルを見つけることができません。コマンドに ISO パスへの正しいパスを指定しており、他のすべてのユーザー証明書が正しいことを確認してください。 1. ISO ファイルへの正しいパスでコマンドを再実行してください。
タスクに対する子プロセス用の fork() コマンドが失敗しました。	子プロセスのタスクを実行するための fork() システムコールの実行に失敗しました。iDRAC は正常に動作していない可能性があります。 1. iDRAC をリセットし、コマンドを実行してください。
選択したオペレーティングシステムに対して Driver Pack から サイズまたはラベルを取得することができません。	Lifecycle Controller に存在する Driver Pack から選択したオペレーティングシステムに対するサイズまたはラベルを取得することができません。Driver Pack が損壊している可能性があります。 1. USC または DUP を使用して Driver Pack をアップデートし、コマンドを再実行してください。
ISO イメージを起動することができません。	ISO の起動に失敗しました。BIOS が ISO イメージを起動できないか、ISO イメージ起動の成功時に BIOS から 5 分以内に応答を取得することができませんでした。 1. ユーザーインタラクションを生じた POST エラーが存在していないことを確認してください (F1 を押し続けて実行するか、F2 を押してセットアップを実行してください)。 2. iDRAC をリセットし、コマンドを実行してください。
ISO イメージをホストから切り離すことができません。	ISO イメージをホストから切り離すことができません。イメージが既に切り離されているか、iDRAC が正しく動作していない可能性があります。 1. iDRAC をリセットして ISO イメージを自動的に切り離してください。
DetachISOImage を続行することができません - ISO イメージを明示するプロセスに別のコマンドが存在し、ISO イメージを起動中です。	ISO イメージを明示するプロセスに別のコマンドが存在し、ISO イメージを起動中であるので、DetachISOImage を続行することができません - 1. ConcreteJob ステータスを調べて、現在実行しているプロセスが完了したことを確認し、DetachISOImage を実行してください。
DetachDrivers を続行することができません - UnPackAndAttach が進行中です。	1. UnpackAndAttach が終了するまで待ち、DetachDrivers を実行してください。
オペレーティングシステムドライバーを備えた USB デバイスを切り離すことができません。	ホストからの (オペレーティングシステムのインストール用のドライバーを備えた) USB デバイスの切り離しに失敗しました。デバイスが既に切り離されているか、iDRAC が正しく動作していない可能性があります。 1. iDRAC をリセットしてこのデバイスを自動的に切り離してください。
BootToPXE を続行することができません - 別のコマンドを実行中です。	別のプロセスが Lifecycle Controller を使用しているため、BootToPXE コマンドを続行することができません。

	<ol style="list-style-type: none"> ConcreteJob ステータスを調べて、現在実行しているプロセスが完了したことを確認し、BootToPXE を実行してください。
選択したオペレーティングシステム用のドライバーのコピーに失敗しました。	<p>選択したオペレーティングシステム用のドライバーのコピーに失敗しました。Driver Pack が損壊している可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> USC または DUP を使用して Driver Pack をアップデートし、コマンドを再実行してください。
ISO イメージ上のハッシュ検証に失敗しました。	<p>ISO イメージ上のハッシュ検証に失敗しました。コマンドで指定したハッシュ値が正しくないか、ISO イメージが変更されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> コマンドで指定したハッシュ値が正しいことを確認してください。 ISO が変更されていないことを確認してください - 共有上の ISO イメージを交換してコマンドを再実行してください。
Lifecycle Controller に Driver Pack 設定ファイルが見つかりません。Driver Pack が損壊している可能性があります。	<p>Lifecycle Controller に Driver Pack 設定ファイルが見つかりません。Driver Pack が損壊している可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> USC または DUP を使用して Driver Pack をアップデートし、コマンドを再実行してください。
ExposeDuration 用の値が無効です - 60~65535 秒である必要があります。	<p>ExposeDuration 用に指定した値が範囲外です。60~65535 秒である必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 60~65535 秒の ExposeDuration 値でコマンドを再実行してください。
ネットワーク共有へのオペレーティングシステムドライバーのコピーに失敗しました。	<p>ネットワーク共有への選択したオペレーティングシステム用のドライバーのコピーに失敗しました。共有が読み取り専用であるか、Lifecycle Controller 内に存在しているドライバーパックが損壊している可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ネットワーク共有が書き込み許可されていることを確認してください。 USC または DUP を使用して Driver Pack をアップデートし、コマンドを再実行してください。
ISO イメージをホストから切り離すことができません。	<p>システムに ISO イメージを取り付けていないので、DetachISOImage を続行することができません。</p> <ol style="list-style-type: none"> DetachISOImage コマンドを実行しないでください。
インストール済みの BIOS バージョンはこの方法をサポートしていません。	<p>システムは、この方法をサポートしていない旧バージョンの BIOS を備えています。この方法を使用するには、最新バージョンの BIOS をインストールしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> BIOS をバージョン 1.2 以降にアップデートして、コマンドを再実行してください。
BootToPXE を続行することができません - ISO イメージがシステムに取り付けられています。	<p>システムが ISO イメージを取り付けているので、BootToPXE コマンドを続行することができません。BootToPXE を続行する前に ISO イメージを切り離してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> DetachISOImage コマンドを実行して、BootToPXE を実行してください。
Lifecycle Controller が無効になっています。	<p>システム上の Lifecycle Controller が無効になっているので、リモート有効化 OSD コマンドが機能しません。コマンドを実行する前に、Lifecycle Controller が有効になっていることを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> システムを再起動し、POST 内の CTRL+E オプションを使用してシステムサービスを有効にしてください。
サーバー上の CTRL+E オプションを使用し、ユーザーが ISO イメージへの起動をキャンセルしました。	<p>ユーザーは、POST 時に CTRL+E オプションを使用してシステムサービスをキャンセルしました。これにより、ISO に対する起動の WSMAN 要求が有効にキャンセルされました。</p> <ol style="list-style-type: none"> システムが ISO を再起動している POST 時に CTRL+E を使用してシステムサービスをキャンセルしないでください。

よくあるお問い合わせ(FAQ)

USC - LCE がアップデートをダウンロードする際、ファイルはどこに保存されますか。

ファイルは、メインシステム基板上の不揮発性メモリに保存されます。このメモリは取り外し不可で、オペレーティングシステムからアクセスすることはできません。

アップデートのデータを保存するのに、仮想メディアデバイスまたは vFlash カードは必要ですか。

いいえ。ファイルは、メインシステム基板上のメモリに保存されます。

仮想メディアとは何ですか。

仮想メディアとは、サーバーがローカルメディアとして識別する CD、DVD および USB キーなどのリモートメディアです。

アップデートが失敗した場合、どうすればよいですか？

アップデートが失敗した場合、USC-LCE が再起動し、選択された未実行のアップデートをすべて実行しようとして、最終の再起動が行われた後に、システムは USC-LCE ホームページに戻ります。**プラットフォームアップデート** を再開し、失敗したアップデートを再度選択し、**適用** をクリックしてください。

vFlash または仮想フラッシュとは何ですか

vFlash は、iDRAC6 Enterprise に挿し込まれるフォーマットされた SD (Secure Digital) カードです。 vFlash は、データストレージ用の USB キーとしてアクセスできるように、iDRAC を介してフォーマットおよび有効にすることができます。仮想フラッシュは、リモートから ISO を書き込むことができる vFlash 上のパーティションです。詳細については、support.dell.com/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

オペレーティングシステムのインストールに使用する独自のドライバを追加できますか。

いいえ。オペレーティングシステムのインストールに独自のドライバを追加することはできません。オペレーティングシステムのインストールに使用されるドライバのアップデート方法については、「[プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート](#)」を参照してください。

インストールされているオペレーティングシステムで使用されるドライバを USC または USC-LCE を介して アップデートできますか？

いいえ。USC または USC - LCE はオペレーティングシステムのインストールに必要なドライバのみを提供します。インストールされているオペレーティングシステムで使用されるドライバのアップデートについては、ご利用のオペレーティングシステムのヘルプマニュアルを参照してください。

USC または USC - LCE のアップデートに使用する独自のドライバおよびファームウェアをローカル USB デバイスに追加できますか。

いいえ。『Server Update Utility DVD』からダウンロードされたドライバおよびファームウェアのみがサポートされています。詳細については、「[ローカル USB デバイスの設定](#)」を参照してください。

USC または USC - LCE を削除できますか。

いいえ。

インストール時に、オペレーティングシステムのメディアソースとして、仮想メディアを使用できますか。

はい。システムの iDRAC デバイスの詳細については、(support.dell.com/manuals の)『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

アップデートリポジトリとして、仮想 USB を使用できますか。

はい。システムの iDRAC デバイスの詳細については、(support.dell.com/manuals の)『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

UEFI とは何ですか。USC または USC - LCE は、どの UEFI バージョンに準拠していますか。

UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) とは、ブレード環境からオペレーティングシステムへの移行制御を行うインタフェースを定めた仕様です。USC または USC - LCE は UEFI バージョン 2.1 に準拠しています。詳細については、www.uefi.org を参照してください。

ハードウェア構成において、設定ウィザードと詳細設定の違いは何ですか。

USUSC - LCE でハードウェアを設定するには、設定ウィザードと 詳細設定 の 2 通りの方法を使用できます。

設定ウィザードは、システムデバイスの設定方法を順番に追ってガイドします。設定ウィザードには、iDRAC、RAID、システム日時、および物理セキュリティが含まれます。詳細については、「[ハードウェア構成](#)」を参照してください。

詳細設定では、HII (Human Interface Infrastructure) が有効なデバイス (たとえば、NIC および BIOS) を設定できます。詳細については、「[詳細設定](#)」を参照してください。

USC または USC - LCE は、xx1x システムのすべての RAID レベルとすべての RAID カードをサポートしますか。

USC または USC - LCE は、PERC 6.1 ファームウェアを実行する PERC 6 カード上の RAID レベル 0、1、5、6、10、50、および 60 をサポートしています。RAID 0 および 1 は、SAS 6/iR 上でサポートされています。

USC - LCE は、BIOS およびファームウェアのロールバックをサポートしていますか。

はい。詳細については、「[BIOS およびファームウェアの以前のバージョンへのロールバック](#)」を参照してください。

システムアップデートがサポートされるのは、どのデバイスですか。

USC - LCE は、BIOS、iDRAC ファームウェア、電源ファームウェアおよび特定の RAID と NIC コントローラファームウェアのアップデートを現在サポートしています。詳細については、「[プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート](#)」を参照してください。

ハードウェア構成内の詳細設定で、どのデバイスがサポートされていますか。

BIOS および NIC が詳細設定でサポートされています。ご利用のシステム構成によっては、HII 設定仕様をサポートする他のデバイスも詳細設定に表示される場合があります。詳細については、「[ハードウェア構成](#)」を参照してください。

USC または USC - LCE の使用中にシステムがクラッシュしたらどうしますか。

USC または USC - LCE の使用中にシステムがクラッシュした場合、黒い画面に赤いテキストが表示されます。この問題を解決するには、まずシステムを再起動して、USC または USC - LCE を再び立ち上げてください。問題が解決されない場合は、「[USC の修復](#)」の「[USC - LCE の修復](#)」の手順を実行します。それでも問題が解決されない場合は、デルにお問い合わせの上、テクニカルサポートをお求めください。

USC-LCE 製品の現在インストールされているバージョンの詳細をどのようにして見つけることができますか？

左のナビゲーション枠の[バージョン情報](#)をクリックしてください。

iDRAC KVM 上で USC LCE へアクセスするときに、マウス同期の問題がある場合どうすればよいですか？

iDRAC KVM クライアント上で iDRAC6 KVM メニューのツールで[単一カーソル](#)オプションが選択されていることを確認します。詳細については、support.dell.com/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

用語集

Dell™ Lifecycle Controller Version 1.2

BitLocker

Microsoft® Windows Server® 2008 オペレーティングシステムで提供されているフルディスク暗号化機能。ボリューム全体を暗号化します。

DUP

Dell アップデートパッケージ。標準パッケージ形式の自己解凍型の実行ファイル。アップデートパッケージはそれぞれ、ご利用のシステムの単一のソフトウェアコンポーネントをアップデートするように設計されています。

HII

Human Interface Infrastructure(ヒューマンインタフェースインフラストラクチャ)。HII は、デバイス設定の表示および設定を行うための UEFI 標準仕様です。

RACADM

リモートアクセスコントローラ(RAC)をローカルまたはリモートから設定するためのスクリプト実行可能なインタフェースを提供するコマンドラインユーティリティ。

RAID

Redundant Array of Independent Disks(個別ディスクの冗長アレイ)。

SAS

シリアル接続 SCSI

SATA

シリアルATA

SBUU

Systems Build and Update Utility プレオペレーティングシステム環境における BIOS およびファームウェアのアップデート、現在のシステムまたは複数のシステムに対する適用、オペレーティングシステムのインストールなどを可能にする Dell システムの内蔵ツール。

SCSI

Small computer system interface(小型計算機システムインタフェース)。

SSD

ソリッドステートディスク。

SSM

System Service Manager(システムサービスマネージャ)。SSM は、アップデートのダウンロードなど USC や USC - LCE 機能をバックグラウンドタスクとして実行します。

TPM

Trusted Platform Module(信頼済みプラットフォームモジュール) TPM とは、データを保護するための暗号化キーが格納されるセキュアな暗号化プロセッサです。

UEFI

Unified Extensible Firmware Interface。UEFI とは、ブート環境からオペレーティングシステムへの移行制御を行うためのインタフェース仕様です。詳細については、www.uefi.org を参照してください。

カード

セキュアデジタルカード。ソリッドステートのメモ리카ード。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリ間やマイクロプロセッサと周辺デバイス(ディスクドライブやキーボードなど)間のデータ転送を管理するチップ。RAID コントローラは、ストライピングやミラーリングなどの RAID 機能を実行してデータを保護します。

ストライピング

ディスクストライピングでは、仮想ディスク内のすべての物理ディスクにまたがってデータが書き込まれます。各ストライプは、連続パターンを使用して、固定サイズのユニットで仮想ディスク内の各物理ディスクにマッピングされる連続した仮想ディスクデータのアドレスで構成されています。たとえば、仮想ディスクに 5 台の物理ディスクが含まれている場合、ストライプは、どの物理ディスクにも一度だけアクセスして、物理ディスク 1 ~ 5 にデータを書き込みます。ストライプに使用される物理ディスク内の容量は、各ディスクとも同じです。物理ディスク上のストライプの部分が、ストライプエレメントです。ストライピングは、それだけでは冗長性を実現できません。ストライピングとパリティを組み合わせることでデータの冗長性を実現されます。

ストライプ

[「ストライピング」](#)を参照。

ストライプエレメント

単一の物理ディスク上にあるストライプの部分。[「ストライピング」](#)も参照。

ストライプエレメントのサイズ

1 つのストライプエレメントで使用されるディスク容量。

ストライプサイズ

パリティディスクを除くストライプによって使用される総ディスク容量。

スパン

複数の物理ディスクをまたがるストレージ容量を 1 つの RAID 10 仮想ディスクに結合するための RAID 手法。

ディスクプール

1 台または複数台の仮想ディスクを作成できる RAID コントローラに接続しているディスクの論理グループ。

ホットスベア

論理ドライブの回復に使用できる物理ディスク。

仮想ディスク[かそうでいすく]

仮想ディスクとは、RAID コントローラが 1 つまたは複数の物理ディスクから作成するストレージのことです。仮想ディスクは複数の物理ディスクから作成できますが、オペレーティングシステムからは単一のディスクとして認識されます。使用する RAID レベルに応じて、仮想ディスクには、ディスクでの障害発生に備えて冗長データを保持します。

物理ディスク

データを格納するための非揮発性ランダムアクセス可能デバイス。物理ディスクは書き換え可能で、一般にディスクドライブと呼ばれています。

論理ドライブ

[「仮想ディスク」](#)を参照。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

Remote Service 機能

Dell™ Lifecycle Controller Version 1.2

- [Web Services for Management](#)
- [自動検出](#)
- [リモートオペレーティングシステム配置](#)

Dell™ Lifecycle Controller Remote Service は、リモートコンソールによる自動システム検出を有効にし、リモートオペレーティングシステム配置能力を強化することに焦点を当てた機能一式です。これらの能力は、Lifecycle Controller ファームウェアにより提供されるハードウェア管理インターフェースに基づくウェブサービスを使用します。Remote Service は、オペレーティングシステム配置を簡略化し、新しい Dell システムのセットアップと構成を遠隔的に自動化することを目的としています。

Web Services for Management

Web Services for Management (WS-MAN) は、システム管理用に設計された簡易オブジェクトアクセスプロトコル (SOAP) ベースのプロトコルです。WS-MAN は、Distributed Management Task Force (DMTF) により発行され、デバイスがネットワーク間でデータを共有、交換するための相互運用可能なプロトコルを提供します。Dell Lifecycle Controller - Remote Service は、WS-MAN を使用して DMTF Common Information Model (CIM) ベースの管理情報を送信します。CIM 情報は、管理下システムで操作可能なセマンティクスおよび情報タイプを定義します。デルの組み込みサーバープラットフォーム管理インターフェースは、プロファイルに組み込まれ、各プロファイルは特定の管理ドメインまたは機能領域用の特定のインタフェースを定義します。さらに、デルは追加能力用のインタフェースを提供する数多くのモデルおよびプロファイル拡張を定義しています。

WS-MAN により利用可能なデータおよびメソッドは、Lifecycle Controller、つまり次の DMTF プロファイルとデル拡張プロファイルにマッピングされた Remote Service の計装インタフェースにより提供されます。


標準 DMTF

- 1 ベースサーバー - ホストシステムを表すための CIM クラスを定義します。
- 1 ベースメトリクス - 管理下要素用にキャプチャされたメトリクスをモデリングし、制御する能力を提供するための CIM クラスを定義します。
- 1 ホスト LAN ネットワークポート - ホストシステムへの LAN インタフェース、その関連コントローラー、およびネットワークインタフェースを提供するネットワークポートを表すための CIM クラスを定義します。
- 1 サービスプロセッサ - サービスプロセッサをモデリングするための CIM クラスを定義します。
- 1 USB リダイレクト - USB リダイレクトについての情報を記述するための CIM クラスを定義します。キーボード、ビデオ、およびマウスデバイスについては、デバイスを USB デバイスとして管理する場合にこのプロファイルを使用する必要があります。
- 1 物理資産 - 管理下要素の物理的側面を表す CIM クラスを定義します。
- 1 SM CLP 管理ドメイン - CLP の設定を表すための CIM クラスを定義します。
- 1 電源状態管理 - 電源制御動作の CIM クラスを定義します。
- 1 コマンドラインプロトコルサービス - CLP の設定を表すための CIM クラスを定義します。
- 1 IP インタフェース - 管理下システムの IP インタフェースを表すための CIM クラスを定義します。
- 1 DHCP クライアント - DHCP クライアントおよびその関連能力と設定を表すための CIM クラスを定義します。
- 1 DNS クライアント - 管理下システム内の DNS クライアントを表すための CIM クラスを定義します。
- 1 レコードログ - 異なる種類のログを表すための CIM クラスを定義します。
- 1 ソフトウェアインベントリ - インストール済みの、または利用可能なソフトウェアのインベントリ用の CIM クラスを定義します。
- 1 役割ベース認証 - 役割を表すための CIM クラスを定義します。
- 1 ソフトウェアアップデート - 利用可能なソフトウェアアップデートのインベントリ用の CIM クラスを定義します。
- 1 SMASH コレクション - CLP の設定を表すための CIM クラスを定義します。
- 1 プロファイル登録 - プロファイル実装をアドバタイズするための CIM クラスを定義します。
- 1 簡易アイデンティティ管理 - アイデンティティを表すための CIM クラスを定義します。
- 1 SSH サービス - 管理下システム内で SSH サービスおよびその関連セッションを表す能力を追加することにより、プロファイルを参照する管理能力を拡張するための CIM クラスを定義します。
- 1 バッテリー - バッテリーの論理的な特性を記述、および設定するための CIM クラスを定義します。そのような特性には、バッテリー充電状態およびバッテリー充電を空にするために必要な時間の記述が含まれます。このプロファイルは、バッテリー充電などの動作についても記述します。

Dell 拡張

- 1 Dell Active Directory Client Version 2.0.0 - Active Directory クライアントおよび Active Directory グループ用のローカル特権を設定するための CIM および Dell 拡張クラスを定義します。
- 1 Dell 仮想メディア - 仮想メディアを設定するための CIM および Dell 拡張クラスを定義します。USB リダイレクトプロファイルを拡張します。
- 1 Dell イーサネットポート - NIC 用の NIC 側バンドインタフェースを設定するための CIM および Dell 拡張クラスを定義します。イーサネットポートプロファイルを拡張します。
- 1 Dell 電源利用管理 - ホストサーバーの電源バジェットを表し、ホストサーバーの電源バジェットを設定/監視するための CIM および Dell 拡張クラスを定義します。

- 1 Dell OS 配置 - オペレーティングシステム配置機能の設定を表すための CIM および Dell 拡張クラスを定義します。これは、サービスプロセッサにより提供されたオペレーティングシステム配置機能を実行することによりオペレーティングシステム配置アクティビティをサポートする能力を追加してプロファイル参照の管理能力を拡張します。Dell OS 配置機能の詳細については、「[リモートオペレーティングシステム配置 インターフェイス](#)」を参照してください。

 **メモ:** WS-MAN システムは、DMTF ウェブサービスの管理仕様バージョン 1.0.0 に準拠しています。

Lifecycle Controller - Remote Service WS-MAN 実装は、トランスポートセキュリティ用にポート 443 上の SSL を使用し、基本およびダイジェスト認証をサポートします。Windows® WinRM および Powershell CLI などのクライアントインフラストラクチャ、WSMANCLI などのオープンソースユーティリティ、および Microsoft® .NET® などのアプリケーションプログラミング環境を活用することにより、ウェブサービスインターフェイスを利用できます。

www.delltechcenter.com のデル技術センターには、入手可能な追加の実装ガイド、ホワイトペーパー、プロファイル仕様書、クラス定義 (.mof) ファイル、およびコードサンプルがあります。詳細については、以下の項を参照してください。

- 1 DMTF ウェブサイト: www.dmtf.org/standards/profiles/
- 1 WS-MAN リリースノートまたは Readme ファイル

自動検出

自動検出機能により、Dell プロビジョニングサーバーを組み込んだ管理コンソールによるプロビジョニングされていないシステムの自動検出が可能になります。管理コンソールは、iDRAC にユーザー証明書を提供して、検出されたシステムが管理できるようこれらの証明書で管理者アカウントを生成します。

自動検出を有効にした状態で、iDRAC6 は DHCP から IP アドレスを要求し、管理コンソールまたはプロビジョニングサーバーが存在しているシステムの名前を取得するか、または後で DNS によりアドレスを解決するか、あるいはその両方を行います。管理コンソールのアドレスを取得後、iDRAC6 は安全にハンドシェイクを行ってアカウント証明書を取得します。リモートオペレーティングシステム配置などの運用を実行するため、iDRAC はここで新しく取得した証明書により管理できます。

自動検出機能を有効にした状態での Dell システムを明確に注文した場合 (工場デフォルト設定は**無効に設定**)、iDRAC は DHCP が有効にされ、ユーザーアカウントが有効にされていない状態で納入されます。自動検出機能を**無効**に設定した場合、システムの起動時に iDRAC6 Configuration Utility からこの機能を手動で有効にできます。自動検出機能の有効/無効設定の詳細については、「[自動検出機能を有効/無効にする](#)」を参照してください。

DHCP/DNS の設定

Dell システムをネットワークに追加し、自動検出機能を使用する前に、ダイナミックホストコンフィグレーションプロトコル (DHCP) サーバー/ドメインネームシステム (DNS) が自動検出用の追加されたサポートで設定されていることを確認します。新しくインストールされたサーバーによる管理コンソール検出をネットワーク環境がサポートできるようにするためのいくつかの代案があります。自動検出機能が正常に機能できるよう、次のいずれかの前提条件が満足されていることを確認します。


- 1 DHCP サーバーは、デフォルトで iDRAC により送出された DHCP 要求に対応したベンダー固有オプション (オプション 43) データで管理コンソールの IP アドレスおよびポートを指定します。LifecycleController ベンダークラスが生成されることを確認します。DHCP サーバーは、DNS 検索により 管理コンソールのホスト名を IP アドレスで解決します。
- 1 DNS サーバーは、IP アドレスへの解決を行うサービスオプション _dcimprovsrv._tcp を指定します。
- 1 DNS サーバーは、既知の名前 DCIMCredentialServer を持つサーバーの IP アドレスを指定します。

DHCP および DNS の設定の詳細については、www.delltechcenter.com の Dell エンタープライズ技術センターの『Lifecycle Controller Auto Discovery Network Setup Specification』を参照してください。』

自動検出機能を有効/無効にする

自動検出機能を有効にする前に、次の作業を行います。

- 1 システムの起動時に、指示されたら <Ctrl><e> キーを押します。


 **メモ:** メッセージが表示されたら、5 秒以内に <Ctrl><e> キーを押す必要があります。

iDRAC6 設定ユーティリティページが表示されます。

2. NIC を有効にします (モジュラーシステムのみ)。
3. DHCP を有効にします。
4. **アカウントアクセス**を選択します。
5. **無効にする**を選択します。
6. LAN **パラメーター**ヘナビゲートします。
7. DHCP から**ドメイン名**を選択します。
8. **オン**を選択します。
9. DHCP から **DNS サーバー**を選択します。

10. オンを選択します。
11. iDRAC6 設定ユーティリティを保存し、終了します。
12. システムを起動します。


自動検出機能を有効にするには:

1. システムの起動時に、指示されたら <Ctrl><e> キーを押します。
 **メモ:** メッセージが表示されたら、5 秒以内に <Ctrl><e> キーを押す必要があります。

iDRAC6 設定ユーティリティページが表示されます。

2. LAN ユーザー設定へナビゲートします。
3. 自動検出を選択します。
4. 有効にするを選択して自動検出機能を有効にします。

自動検出機能を無効にするには、「手順 1」、「手順 2」、および「手順 3」を繰り返し、無効にするを選択します。

 **メモ:** 管理者アカウントが有効になっている場合、自動検出機能は実行されません。

自動検出ワークフロー

1. 新しい Dell システムをネットワークに接続します。
2. 電源ケーブルを接続して、システム電源を投入します。
3. iDRAC が起動し、DHCP/DNS から管理コンソール/プロビジョニングサーバーのアドレスを取得し、自分自身を管理コンソールへ知らせます。
4. 管理コンソールは、iDRAC からの安全なハンドシェイクセッションを検証し、オプションとしてそれを受け付けます。
5. 管理コンソールは、管理者特権でユーザー証明書を作成し、ログイン証明書を iDRAC へ送信します。
6. iDRAC は、安全なハンドシェイクを受信し、それを完了します。

リモートオペレーティングシステム配置

リモートオペレーティングシステム配置能力は、WS-Man ウェブサービスプロトコルと CIFS および NFS ネットワークファイル共有プロトコルを使用して、オペレーティングシステムの配置をリモートで可能にします。

リモートオペレーティングシステム配置の主な機能

リモートオペレーティングシステム配置の主な能力を次に示します。

- 1 組み込みドライバーの USB デバイスとしてのローカル明示のリモート起動
- 1 選択したオペレーティングシステム毎の組み込みドライバーのリモート取得
- 1 ネットワーク共有に存在する ISO イメージに対する起動

リモートオペレーティングシステム配置インターフェイス

Dell OS 配置ウェブサービスインターフェースは、iDRAC サービス プロセッサにより提供されたオペレーティングシステム配置機能を実行することにより、オペレーティングシステム配置アクティビティをサポートする能力を提供します。詳細なインターフェース仕様書およびクラス定義 (.mof) ファイルは、www.delltechcenter.com のデルエンタープライズ技術センターの Lifecycle Controller 分野にあります。ウェブサービスプロトコル WS-MAN による CIM および Dell 拡張クラスを使用して、Dell OS 配置機能は次の能力を提供します。

- 1 次の組み込みドライバーパック (プラットフォーム用のサポートされているすべてのオペレーティングシステムのサポートされているすべてのオペレーティングシステムドライバーのパッケージ) バージョンを取得します。


WS-MAN による iDRAC からの リモート管理コンソール、アプリケーション、スクリプト要求ドライバーパックオプションおよびサポートされているオペレーティングシステムのリスト


DCIM_OSDeploymentService クラスの GetDriverPackInfo() メソッドは、組み込みドライバーパックバージョンとドライバーパックによりサポートされているオペレーティングシステム

ムのリストを返します。

1. どのオペレーティングシステムがドライバーを必要としているかを判断した後、適切なドライバーを開梱しローカルに明示するか、リモートで取得するため、次のいずれかのメソッドを WS-MAN により起動することができます。

- k. **DCIM_OSDeploymentService** クラスの **UnpackAndAttach()** メソッドは、要求されたオペレーティングシステムのドライバーを抽出し、**OEMDRV** のラベルの付いた内部 USB デバイスに配置します。**OEMDRV** は、システムに対してローカルに接続された USB デバイスとして表示されます。このメソッドは、入力パラメーターとしてオペレーティングシステム名と明示期間を使用し、開梱および接続アクティビティの状態を後で確認可能なジョブ識別名を返します。


 **メモ:** 開梱され接続されたドライバーは、**ExposeDuration** パラメーターで指定した時間の後に削除され、メソッド起動で時間が指定されていない場合には、デフォルトとして **OEMDRV** USB デバイスが 18 時間後に削除されます。


 **メモ:** システムサービスを使用する前に、このプロセスで接続された ISO イメージが切り離されることを確認します。

- l. **DCIM_OSDeploymentService** クラスの **UnpackAndShare()** メソッドは、要求されたオペレーティングシステム用のドライバーを抽出し、ネットワーク共有にコピーします。このメソッドは、入力パラメーターとしてオペレーティングシステム名と明示期間を使用し、開梱および接続アクティビティの状態を後で確認可能なジョブ識別名を返します。ネットワーク共有情報には、共有の IP アドレス、共有名、共有タイプ、および安全な共有のためのユーザー名、パスワード、およびワークグループデータが含まれます。

1. 次のメソッドを使用して、ネットワーク共有上の ISO イメージからシステムを起動するか、PXE 起動メカニズムを開始することができます。

- a. **DCIM_OSDeploymentService** クラスの **BootToNetworkISO()** メソッドは、CIFS または NFS ネットワーク共有で利用可能になった ISO イメージを使用してシステムを起動します。このメソッドは、入力パラメーターとして ISO イメージ名、ネットワーク共有情報、および明示期間を使用し、開梱および接続アクティビティの状態を後で確認可能なジョブ識別名を返します。ネットワーク共有情報には、共有の IP アドレス、共有名、共有タイプ、および安全な共有のためのユーザー名、パスワード、およびワークグループデータが含まれます。追加のセキュリティとして、よく知られたハッシュアルゴリズムを使用してハッシュ値を計算でき、使用したハッシュのタイプと共にこの値を入力パラメーターとして提供できます。

 **メモ:** 開梱され接続されたドライバーは、**ExposeDuration** パラメーターで指定した時間の後に削除されます。メソッド起動で時間を指定しなかった場合、デフォルトとして **OEMDRV** USB デバイスが 18 時間後に削除されます。

 **メモ:** システムサービスを使用する前に、このプロセスで接続された ISO イメージが切り離されることを確認します。

- b. **DCIM_OSDeploymentService** クラスの **BootToPXE()** メソッドは、システムの起動前実行環境 (PXE) の起動を開始します。このメソッドには入力パラメーターが不要です。

1. 次のメソッドを使用して、ローカル **OEMDRV** デバイスまたはネットワーク ISO イメージを直接切り離すことができます。以前に設定した明示期間のタイムアウトの前にこれらのメソッドは使用できます。

- a. **DCIM_OSDeploymentService** クラスの **DetachDrivers()** メソッドは、**UnpackAndAttach()** メソッドの起動により以前に接続された **OEMDRV** デバイスを切り離し、削除します。
- b. **DCIM_OSDeploymentService** クラスの **DetachISOImage()** メソッドは、**BootToNetworkISO()** メソッドの起動により以前に接続されたネットワーク共有ベース ISO イメージを切り離し、削除します。

1. 本書に示すいくつかのメソッドは、出力パラメーターとしてジョブ識別名を返します。ジョブは、すぐに実行できず、基本的な技術的制約のため標準のウェブサービス要求応答のタイムアウトよりも時間がかかる、要求されたアクションを追跡する手段を提供します。返されたジョブ識別名は、後で **WS-MAN Enumerate** または **Get** 要求で使用して、ジョブオブジェクトインスタンスを取り出すことができます。ジョブオブジェクトインスタンスは、ジョブの状態およびジョブが正常に完了したか、問題が発生したため失敗したかを確認可能なジョブステータス特性を含んでいます。ジョブの失敗が発生した場合、ジョブインスタンスは失敗の性質に関する詳細情報を提供するエラーメッセージ特性も含んでいます。他の特性は、エラーメッセージをサポートされている言語にローカライズし、詳細なエラー説明および推奨される応答アクションの説明の取得ができる他のエラー識別情報を含んでいます。

1. **DCIM_OSDeploymentService** クラスの **GetHostMACInfo()** メソッドは、システム上のすべての LAN on Motherboard (LOM) ポートを表す物理ネットワークポート MAC アドレスのリストを返します。このメソッドには入力パラメーターが不要です。

1. 本書に示すすべての **DCIM_OSDeploymentService** メソッドは、メソッドが正常に実行されたか、エラーが発生したか、またはジョブが生成されたかを示すエラーコードを返します。メソッド内で実行されるアクションがすぐに完了できなかった場合、ジョブ生成が発生します。さらに、エラーが発生した場合、これらのメソッドは、エラーを **Unified Server Configurator** によりサポートされている言語にローカライズするために使用可能なエラーメッセージ (英文) および他のエラー識別子も含んでいます。他のエラー識別子は、**Dell Message Registry XML** ファイルのインデックス作成および処理に使用できます。**Dell Message Registry** ファイルは、1 言語に 1 ファイルの単位で 6 ヶ国語のサポートされている言語で利用可能です。翻訳されたエラーメッセージに加えて、**Message Registry** ファイルは **Lifecycle Controller Remote Service** ウェブサービスインタフェースにより返される各エラーについての追加の詳細エラー説明および推奨応答アクションも含んでいます。ウェブサービスエラーメッセージのローカライズ方法に関する詳細については、www.delltechcenter.com の **デルエンタープライズ技術センターの Lifecycle Controller** 分野にある『**Dell** ウェブサービスエラーメッセージのローカライズ』を参照してください。

オペレーティングシステム配置の一般的な使用事例のシナリオ

本項は、オペレーティングシステムをリモートで配置するための一般的なシナリオを示しています。オペレーティングシステムをリモートで配置するには、次の手順を実行する必要があります。

前提条件と依存性

オペレーティングシステムをリモートで配置するための前提条件と依存性を次に示します。

1. ネットワーク共有にオペレーティングシステムまたはオペレーティングシステム ISO イメージをインストールするためにブロッコディスクが利用できます。
1. USC-LCE に最新のドライバーパックがインストールされ、利用可能であることが推奨されます。
1. 利用するプロビジョニングコンソール、アプリケーションまたは適切なスクリプトは、WS-MAN ウェブサービス要求およびメソッド起動の送信が可能です。

ワークフロー

リモートオペレーティングシステム配置用の一般的なワークフローを次に示します。

1. カスタムの動作前システム/オペレーティングシステムイメージを作成し、ネットワーク上で共有するか、必要なオペレーティングシステムメディア ISO イメージを作成します。
1. サポートされているオペレーティングシステムのリストとドライバーパックバージョン情報を取得します。
1. オペレーティングシステム配置用のドライバーを開梱し接続することにより、オペレーティングシステムドライバーを実施します。これらのドライバーは、オペレーティングシステム配置プロセスでインストールされます。

- 1 オペレーティングシステム配置プロセスを開始するため、カスタムの動作前システム/オペレーティングシステムイメージを遠隔的に起動します。
- 1 Run Detach コマンドを実行して、ISO メディアとドライバーデバイスを切り離します。

Lifecycle Controller 1.2 ウェブサービスインタフェースガイドライン、ホワイトペーパー、Dell OS 配置プロファイルデータモデル仕様書、クラス定義 (.mof) ファイル、サンプルコードおよびスクリプトを含む Lifecycle Controller リモートオペレーティングシステム配置機能の詳細については、www.delltechcenter.com のデルエンタープライズ技術センターの Lifecycle Controller 分野を参照してください。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

概要

Dell™ Lifecycle Controller Version 1.2

新しく強固なサーバー管理能力を提供するため、Unified Server Configurator および Lifecycle Controller の利用が可能な (USC/USC-LCE) ソフトウェア製品である Unified Server Configurator は、追加のリモートサービス機能を装備するために強化されています。この追加によりサーバー管理への包括的なアプローチが可能となるので、ソフトウェアコンポーネント一式全体が現在 Lifecycle Controller 1.2 (LC 1.2) と呼ばれています。

LC 1.2 ソフトウェアコンポーネントは、統合 Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) Express カードと Unified Extensible Firmware Infrastructure (UEFI) システムファームウェアに組み込まれています。iDRAC6 は、従来の BMC (Baseboard Management Controller) の能力を超えたコンポーネントおよびサブシステム管理を含んで、ハードウェアの各側面にアクセスし、それを管理するため UEFI ファームウェアと共に動作します。

リモートサーバー管理はプログラマティックウェブサービス用ネットワークを使用して実施される一方、コマンドライン (CLI) とグラフィカルユーザーインターフェースはオペレーティングシステムおよびシステム電源状態に依存しない方法で iDRAC6 カードにより提供されます。UEFI 環境は、ローカルコンソールインターフェース、およびローカル管理およびリモート管理のシステムコンポーネントを提供します。

リモートサービス機能により、Dell Management Console (DMC) およびパートナーコンソールなどのコンソールは動作前のシステム環境で LC 1.2 機能にアクセスすることができます。USC/USC-LCE は、動作前システム環境のプロビジョニングを支援するため、ローカルサーバー上に組み込みソリューションを提供します。

リモートサービス

リモートサービスは安全なウェブサービスインターフェースを使用してネットワーク上でアクセス可能であり、アプリケーションとスクリプトによりプログラマティックに利用できます。リモートサービスにより、既存のコンソールは 1 対多のベアメタルサーバープロビジョニングを実行できます。ネットワークに対して取り付けられた Dell システムを識別し、認証する新しい自動検出機能および 1 対多管理コンソールへの統合の組み合わせにより、サーバープロビジョニングのために必要な手動手順が低減されます。さらにリモートサービスは、オペレーティングシステムとドライバーのインストールに関連するタスクを簡略化するリモートでアクセス可能なオペレーティングシステムの配置に関連した機能を提供します。リモートサービスプロビジョニングソリューションがサポートする機能の詳細については、[「Remote Service 機能」](#)をご覧ください。

Unified Server Configurator (USC)

Unified Server Configurator (USC): BMC を使用し、オペレーティングシステム配置、ハードウェア診断、および USC 設定能力を提供するベースレベル製品。

Unified Server Configurator - Lifecycle Controller 使用可能 (USC - LCE): iDRAC6 Express および Enterprise カードを使用し、プラットフォームアップデート、ハードウェア構成、オペレーティングシステム配置、ハードウェア診断、USC 設定、専用 NIC ポート、仮想 KVM、および仮想メディア能力を提供する、全機能を備えた製品。Dell システムシリーズ 200~500 は USC-LCE へアップグレードできます。詳細については、『Hardware Owner's Manual』をご覧ください。

ご使用のシステム構成によって、USC または USC - LCE はそのシステムでサポートされている機能を表示します。詳細は、[「表 1-1」](#)を参照してください。

表 1-1 製品の分類

Dell システムシリーズ	オプション	利用可能なリモートシステム管理デバイス	USC または USC-LCE	利用可能な機能
100	オプションなし	組み込み BMC	USC	BMC - オペレーティングシステム配置、診断、設定
200 ~ 500	Standard	組み込み BMC	USC	BMC - オペレーティングシステム配置、診断、設定
	オプション	組み込み BMC + iDRAC6 Express カード	USC-LCE	BMC - オペレーティングシステム配置、診断、設定 iDRAC6 Express - プラットフォームアップデート、ハードウェア構成、ドライバリポジトリを追加します
		組み込み BMC + iDRAC6 Express カード iDRAC6 Enterprise カード	USC-LCE	BMC - オペレーティングシステム配置、診断、設定 iDRAC6 Express - プラットフォームアップデート、ハードウェア構成、ドライバリポジトリを追加します iDRAC6 Enterprise - フルリモート管理、専用 NIC ポート、仮想 KVM、仮想メディア、仮想フラッシュを追加します
600 ~ 900	Standard	組み込み BMC に iDRAC6 Express カードを組み込み	USC-LCE	BMC with iDRAC6 Express - オペレーティングシステム配置、診断、設定、プラットフォームアップデート、ハードウェア構成、ドライバリポジトリ
	オプション*	BMC に iDRAC6 Express カード + iDRAC6 を組み込み Enterprise カード	USC-LCE	BMC with iDRAC6 Express - オペレーティングシステム配置、診断、設定、プラットフォームアップデート、ハードウェア構成、ドライバリポジトリ iDRAC6 Enterprise - フルリモート管理、専用 NIC ポート、仮想 KVM、仮想メディア、仮想フラッシュを追加します

* Dell モジュラーシステムの場合 - BMC、iDRAC6 Express カード、および iDRAC6 Enterprise カードは標準構成として含まれています。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

Unified Server Configurator および Lifecycle Controller を使用可能な Unified Server Configurator

Dell™ Lifecycle Controller Version 1.2

- [共通の機能](#)
- [iDRAC6 Express カードのアップグレード方法](#)
- [Unified Server Configurator - Lifecycle Controller Enabled 固有の機能](#)
- [ローカル FTP サーバーの設定](#)
- [ローカル USB デバイスの設定](#)

Unified Server Configurator (USC) および Lifecycle Controller を使用可能な Unified Server Configurator (USC - LCE) は、組み込みフラッシュメモリーカード上に常駐しており、システムのライフサイクルにおいて組み込み環境からシステムおよびストレージ管理タスクを有効にする設定ユーティリティを組み込んでいます。USC および USC - LCE は、起動シーケンス時に起動でき、動作前システム環境で機能できるという点で BIOS ユーティリティに似ています。「[表 1-1](#)」では、Dell システムシリーズ、リモートシステム管理デバイスのオプション、USC または USC-LCE、および利用可能な機能について詳しく説明します。

USC を使用すると、デルの FTP ウェブサイト ftp.dell.com から、または USB デバイスや『Dell Systems Management Tools and Documentation』あるいは『Dell Server Updates DVD』などのローカルデバイスを使ってオペレーティングシステムのインストール用のドライバをダウンロードできます。また、オペレーティングシステムを配置したり、ハードウェア診断を実行してシステムや接続されているハードウェアを検証することもできます。システムによっては、Baseboard Management Controller (BMC) から iDRAC6 Express または iDRAC6 Enterprise カードにアップグレードでき、このハードウェアアップグレードでは USC から USC - LCE へのアップグレードも行われます。システムのアップグレード方法については、「[iDRAC6 Express カードのアップグレード方法](#)」と『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。USC - LCE を使用することにより、デルのサポートサイト support.dell.com で検索しなくても、システムアップデートを即座に識別し、ダウンロードして適用できます。また、BIOS およびシステムデバイス (NIC、RAID、iDRAC など) の設定、オペレーティングシステムの展開、システムおよび接続されているハードウェアを検証するための診断の実行なども行えます。

共通の機能

本章では、USC と USC - LCE の両方に共通する機能について説明します。USC - LCE タスクに必要な追加の手順や情報も記載されています。

製品の起動

USC または USC - LCE を起動するには、システムの起動プロセス中、Dell のロゴが表示されて 10 秒以内に <F10> キーを押し、**システムサービス** を立ち上げます。

システムが以下のような状態にある場合、<F10> キーを押しても、**システムサービス** を立ち上げることはできません。


- 1 **System Services disabled (システムサービスが無効です)** - iDRAC の初期化中にシステムの電源を投入、または再起動した場合、システムの起動プロセス中に System Services disabled (システムサービスが無効です) が表示されます。これは、システムを AC 電源に差し込んでからすぐにシステムの電源をオンにした場合、または iDRAC のリセット後にすぐにシステムを再起動した場合に発生します。この問題を回避するには、iDRAC の再設定後、数分待ってからシステムを再起動します。これにより、iDRAC が初期化を完了するのに、十分な時間を確保できます。

まだ、System Services disabled (システムサービスが無効です) のメッセージが表示される場合は、製品が手動で無効になっている可能性があります。USC または USC - LCE を有効にする手順については、「[製品を無効にする](#)」を参照してください。

- 1 **System Services update required (システムサービスのアップデートが必要)** - システムの起動時に System Services update required (システムサービスのアップデートが必要) のメッセージが表示される場合、内蔵デバイスのデータが破損している可能性があります。この問題を解決するには、USC または USC - LCE Dell Update Package (DUP) を実行して、製品をアップデートしてください。詳細については、support.dell.com/manuals にある『Dell Update Package ユーザーズガイド』を参照してください。

システムにオペレーティングシステムがインストールされていない場合、または DUP を実行しても問題が解決されない場合は、USC または USC - LCE 修復パッケージを実行します。詳細については、「[USC の修復](#)」または「[USC - LCE の修復](#)」を参照してください。

- 1 **System Services not available (システムサービスを利用できません)** - 他のプロセスが現在 iDRAC を使用しています。デルでは、現在のプロセスが完了するまで 30 分間待ってから、システムを再起動して、USC または USC - LCE の起動を試みすることを推奨しています。

 **メモ:** システムがエラー状態にある、または推奨される 30 分間を待つことができない場合は、「[システムサービス起動要求のキャンセル](#)」を参照してください。再起動後に、USC または USC - LCE の再起動を試みます。

USC USC または USC - LCE を初めて起動すると、表示言語およびネットワーク設定を指定できる**ユーザー設定ウィザード**が表示されます。詳細については、「[USC 設定ウィザードの使用](#)」を参照してください。

ウィザードの使用

ウィザードの説明

USC と USC - LCE は、システムの構成に合わせて次のウィザードを開きます。

- 1 **OS の導入** - オペレーティングシステムをインストールするために使用します。詳細については、「[オペレーティングシステムの導入ウィザードを使ってオペレーティングシステムを導入する](#)」を参照してください。
- 1 **ハードウェア診断** - メモリ、入出力装置、CPU、物理ディスク、その他の周辺装置を検証するための診断を実行できます。詳細については、「[ハードウェア診断](#)」を参照してください。
- 1 **ユーザー設定** - USC または USC - LCE で使う言語、キーボードレイアウト、およびネットワーク設定を指定できます。詳細については、「[USC 設定ウィザードの使用](#)」を参照してください。

USC - LCE は、システムの構成に合わせて次の追加のウィザードを開きます。

- 1 **プラットフォームアップデート** - アップデートをシステムにダウンロードして適用できます。ftp.dell.com またはシステムに接続された USB デバイスからアップデートにアクセスできます。詳細については、「[プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート](#)」および「[ローカル USB デバイスの設定](#)」を参照してください。
- 1 **ハードウェア構成** - システムデバイスを設定できます。詳細については、「[ハードウェア構成](#)」を参照してください。

上記のウィザードと共に、USC-LCE は次のオプションを提供しています。

- 1 **ホーム** - ホーム画面へ戻ることができます。
- 1 **バージョン情報** - USC-LCE、および UEFI のバージョン情報を閲覧することができます。**バージョン情報**ウィザードの **Readme の表示** をクリックして USC-LCE readme を表示します。

ウィザードの起動

USC と USC - LCE は、左ペインに利用可能なウィザードを表示します。起動したウィザードをクリックし、右ペインに表示される指示に従います。

ウィザードタスクフロー: USC

初めて USC を使用するとき、デルは以下のウィザードを次の順序で実行することを推奨します。


- 1 **USC 設定** - 使用する言語、キーボード、またはネットワーク設定を変更しない限り、このウィザードを再び実行する必要はありません。
- 1 **OS 配置** - このウィザードを実行してオペレーティングシステムをインストールします。
- 1 **ハードウェア診断** - 定期的に診断を実行し、システムのメンテナンスを必ず行ってください。

ウィザードタスクフロー: USC - LCE

初めて USC - LCE を使用するとき、デルは以下のウィザードを次の順序で実行することを推奨します。

- 1 **USC 設定** - 使用する言語、キーボード、またはネットワーク設定を変更しない限り、このウィザードを再び実行する必要はありません。
- 1 **プラットフォームアップデート** - アップデートをダウンロードして適用します。システムを最新の状態に保つために、**プラットフォームアップデートのウィザード**を定期的に行ってください。
- 1 **ハードウェア構成** - このウィザードを実行してシステム デバイスを設定します。
- 1 **OS 配置** - このウィザードを実行してオペレーティングシステムをインストールします。
- 1 **ハードウェア診断** - 定期的に診断を実行し、システムのメンテナンスを必ず行ってください。

ヘルプへのアクセス

USC または USC - LCE の各画面の右上端に **ヘルプ** ボタンがあります。**ヘルプ**  をクリックすると、現在の画面のヘルプが表示されます。

Readme の表示


バージョン情報 → **Readme の表示** をクリックして Readme ファイルを表示します。

USC - LCE のアップデート

プラットフォームアップデート ウィザードを使用して、USC - LCE の最新バージョンにアップデートできます。デルは、定期的に**プラットフォームアップデート** ウィザードを実行して、最新のアップデートを取得することを推奨します。詳細については、「[プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート](#)」を参照してください。

製品を無効にする

システムの起動時に USC または USC - LCE が起動しないように無効にできます。


- 1 システムの起動時に、指示されたら <Ctrl><e> キーを押します。
 **メモ:** メッセージが表示されたら、5 秒以内に <Ctrl><e> キーを押す必要があります。
iDRAC6 設定ユーティリティページが表示されます。
- 2 **システムサービス** に移動します。

3. システムサービスを無効にする を選択します。
4. 変更内容を保存し、iDRAC6 設定ユーティリティページメニューを終了します。システムは自動的に再起動します。


製品を有効にするには、「手順 1」および「手順 2」を繰り返し、システムサービスを有効にする を選択します。

システムサービス起動要求のキャンセル

USC または USC - LCE によってシステムが繰り返し再起動する場合は、システムサービスの起動要求をキャンセルできます。

 **注意:** この処置は、USC または USC - LCE が実行中のすべてのタスクをキャンセルします。やむを得ない場合以外、システムサービスの起動要求はキャンセルしないでください。

1. システムの起動時に、指示されたら <Ctrl><e> キーを押します。

 **メモ:** メッセージが表示されたら、5 秒以内に <Ctrl><e> キーを押す必要があります。


iDRAC6 設定ユーティリティページが表示

2. システムサービス に移動します。
3. システムサービスのキャンセル を選択します。

変更内容を保存し、iDRAC6 設定ユーティリティページを終了します。システムが自動的に再起動します。

USC 設定ウィザードの使用

USC 設定ウィザードを使うと、USC や USC - LCE の言語、キーボードレイアウト、ネットワーク設定を指定できます。


 **メモ:** USC 設定は USC と USC - LCE にも適用され、システムやシステムで実行しているその他のアプリケーションには適用されません。

1. USC 設定ウィザードの立ち上げ:
 - a. システムを起動して、Dell ログが表示されてから 10 秒以内に <F10> を押します。
 - b. USC ホーム画面が表示されるまで待ち、左ペインの USC 設定 をクリックします。

2. 右ペインの言語とキーボード をクリックします。


 **メモ:** 上下の矢印キーを使用して、言語とキーボードの種類ドロップダウンメニューにあるオプションにアクセスします。

- a. 言語 ドロップダウンメニューから使用する言語を選択します。
 - b. キーボードの種類 ドロップダウンメニューから使用するキーボードの種類を選択します。
 - c. 完了 をクリックします。
- c. 右ペインの ネットワーク設定 をクリックします。
 - a. NIC カード ドロップダウンメニューから、システムに設定する NIC カードを選択します。
 - b. IP アドレスソース ドロップダウンメニューから 設定なし、DHCP、または 静的 IP を選択します。

 **メモ:** IP アドレスソース機能は IPv4 しかサポートしていません。

- 1 設定なし - NIC を設定しない場合に選択します。
- 1 DHCP - DHCP サーバーから IP アドレスを取得する場合に選択します。
- 1 静的 IP - 静的 IP アドレスを使用する場合に選択します。以下の IP アドレスプロパティを指定します。この情報が不明の場合は、システム管理者に問い合わせてください。
 - o IP アドレス
 - o サブネットマスク
 - o デフォルトゲートウェイ
 - o DNS アドレス

4. **完了** をクリックします。


 **メモ:** USC 設定が正しく指定されないと、エラーメッセージが表示されます。

オペレーティングシステムの導入ウィザードを使ってオペレーティングシステムを導入する

OS 配置 ウィザードは、現在のシステムにオペレーティングシステムをインストールするために使用します。

USC は、オペレーティングシステムのインストールに必要な可能性のあるローカルオペレーティングシステムドライバリポジトリを提供しません。デルの FTP ウェブサイト ftp.dell.com からダウンロードするか、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』またはローカル USB デバイスなど、ドライバがあるローカルソースを使用してください。

USC - LCE には、インストールするオペレーティングシステムごとに必要なドライバのローカルリポジトリが用意されています。OS 配置ウィザードは、これらのドライバを解凍して、ステージングディレクトリにコピーします。サポートされる Microsoft® Windows® オペレーティングシステムの場合、これらの解凍されたドライバは、オペレーティングシステムのインストール時にインストールされます。Red Hat® Enterprise Linux® バージョン 4.7、4.8、5.2、および 5.3 や SUSE® Linux Enterprise Server バージョン 10 SP2 などのサポートされる Linux オペレーティングシステムの場合、オペレーティングシステムのインストールが完了した後に解凍されたドライバを手動でインストールする必要があります。しかし、Red Hat Enterprise Linux バージョン 5.4、SUSE Linux Enterprise Server バージョン 10 SP3、11 以降のインストールについては、解凍されたドライバはオペレーティングシステムのインストール時にインストールされます。詳細については、「[オペレーティングシステムの導入](#)」を参照してください。

 **メモ:** USC - LCE には、出荷時にインストールされるドライバが組み込まれていますが、それより新しいドライバが使用可能な場合があります。オペレーティングシステムをインストールする前に [プラットフォームアップデート](#) ウィザードを実行して、最新のドライバがインストールされることを確認してください。

オペレーティングシステムの導入 ウィザードでは、オペレーティングシステムのインストール前に、起動デバイスがあれば検出されます。起動デバイスとは、オペレーティングシステムをインストールできる物理ディスク、仮想ディスク、またはその他のストレージデバイスです。

システムに RAID コントローラが装備されている場合は、仮想ディスクを設定し、起動デバイスとして使用できます。


システムに RAID コントローラが装備されていないか、RAID を設定しない場合は、**オペレーティングシステムの導入** ウィザードはデフォルトの場所 (通常は BIOS ユーティリティでディスク 0 と識別されるディスク) にオペレーティングシステムをインストールします。

オペレーティングシステムの導入 ウィザードの起動

1. USC を起動するには、システムを起動して、Dell ロゴが表示されてから 10 秒以内に <F10> を押します。
2. 左ペインで OS Deployment (OS の導入) をクリックします。
3. 右ペインで OS の導入 をクリックします。
4. USC の場合、続く「[オペレーティングシステムドライバのソース場所の選択 \(USC のみ\)](#)」手順で作業を続行します。
5. USC - LCE の場合、ご利用のシステムに RAID コントローラが搭載されている場合は、「[オプションの RAID 設定](#)」へ進みます。搭載されていない場合は、「[オペレーティングシステムの選択](#)」へ進みます。

オペレーティングシステムドライバのソース場所の選択 (USC のみ)


この画面を使って、オペレーティングシステムのインストールに必要なドライバを選択します。オペレーティングシステムドライバは、オンラインリポジトリまたはローカルドライブからダウンロードできます。

 **メモ:** [オンラインリポジトリの選択](#) の下にあるテキストボックスまたはドロップダウンメニューまたは **ローカルドライブ** は、対応する [オンラインリポジトリ](#) または **ローカルドライブ** チェックボックスを選択するまでアクティブになりません。

1. [オンラインリポジトリ](#) または **ローカルドライブ** を選択します。

オンラインリポジトリ

FTP サーバーからドライバをダウンロードする場合は、[オンラインリポジトリ](#) を選択します。FTP サーバーへのアクセス方法に基づいて、適切な情報を入力します。

 **メモ:** ファイアウォールを使用している場合は、ポート 21 で外向きの FTP トラフィックを許可するように設定します。また、FTP の応答トラフィックの受信を許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。

 **メモ:** 現在、USC は匿名の FTP ログインしかサポートしていません。


1. [オンラインリポジトリ](#) (デルの FTP サーバー) から **ドライバをダウンロードするには、アドレス フィールドに ftp.dell.com と入力します。**

または

ローカル設定のオンラインリポジトリからドライバをダウンロードするには、アドレス フィールドでドライバがあるサーバーのサーバーホスト名または IP アドレスを指定します。 ローカル FTP サーバーをセットアップする手順の詳細については、「[ローカル FTP サーバーの設定](#)」を参照してください。

1. **プロキシサーバーを使って FTP サーバーにアクセスし、アップデートをダウンロードするには、以下を指定します。**
 - **プロキシサーバー** - プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス

- **プロキシポート** - プロキシサーバーのポート番号
- **プロキシタイプ** - プロキシサーバーの種類

 **メモ:** HTTP と SOCKS 4 のプロキシタイプは USC でサポートされています。

- **プロキシユーザー名** - プロキシサーバーでの認証に必要なユーザー名
- **プロキシパスワード** - プロキシサーバーでの認証に必要なパスワード

1. ドライバをオンラインリポジトリからローカルに保存するには、**ローカルに保存** を選択します。**ローカルに保存** ドロップダウンメニューから、システムドライバを保存する USB ドライブを選択します。

ローカルドライブ


USB デバイスまたは『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』からドライバを取得できる場合は、**ローカルドライブ** を選択します。アップデート用の USB デバイスの設定方法については、「[ローカル USB デバイスの設定](#)」を参照してください。


2. **次へ** をクリックします。

ご利用のシステムに RAID コントローラが搭載されている場合は、「[オプションの RAID 設定](#)」へ進みます。搭載されていない場合は、「[オペレーティングシステムの選択](#)」へ進みます。

オプションの RAID 設定

システムに RAID コントローラが搭載されている場合は、**RAID 設定** ウィザードを起動し、仮想ディスクを起動デバイスとして設定できます。

 **メモ:** システムに RAID コントローラが搭載されていない場合は、**OS 配置ウィザード**は RAID 設定オプションをバイパスし、「[オペレーティングシステムの選択](#)」に直接進みます。

 **メモ:** S100 /S300 コントローラの場合、仮想ディスクは USC - LCEで **RAID 設定** ウィザードを使用して生成することができません。RAID を生成するには、システム起動時に要求されたときに <Ctrl><R> を押してコントローラユーティリティを使用します。

RAID を設定するには:


1. **今すぐ RAID を設定する** を選択して **次へ** をクリックします。このオプションを選択すると、**RAID 設定** ウィザードが起動します。RAID の設定が完了したら、**オペレーティングシステムの導入** ウィザードに戻ります。

RAID 設定をバイパスするには:

1. **直接オペレーティングシステムの導入に進む** を選択して **次へ** をクリックします。このオプションで **オペレーティングシステムの導入** ウィザードが起動します。このオプションを選択すると、BIOS ユーティリティで識別されたデフォルトの起動デバイスにオペレーティングシステムがインストールされます。「[オペレーティングシステムの選択](#)」に進みます。

オペレーティングシステムの導入


オペレーティングシステムに必要な、またはインストール後にシステムのアップデート用に推奨されるドライバは、一時的な場所で解凍されます。これらのファイルは、18 時間後、または <F10> キーを押してオペレーティングシステムのインストールをキャンセルするか再起動後に USC を再起動した場合に削除されます。


 **メモ:** 一時的な場所にドライバが解凍されてから 18 時間の間、オペレーティングシステムのインストール後、DUP を使用して USC USC-LCE、ドライバまたはハードウェア診断をアップデートすることはできません。アップデートを試みると、DUP は他のセッションが開いていることを示すメッセージを表示します。

オペレーティングシステムの選択

以下のステップでオペレーティングシステムを選択します。

1. インストールするオペレーティングシステムを選択し、**次へ** をクリックします。
2. USC または USC - LCE は、選択したオペレーティングシステムに必要なドライバを解凍します。ドライバは OEMDRV という名前の内部 USB に解凍されます。
3. ドライバを解凍した後、オペレーティングシステムのインストールメディアを挿入するように要求されます。

 **メモ:** Red Hat Enterprise Linux 4.x サーバーと Red Hat Enterprise Linux 5.x サーバーでは、ドライバは /oemdrv/*.rpm の OEMDRVに解凍されます。SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 では、ドライバは /linux/suse/x86_64-sles10/install/*.rpm に解凍されます。

 **メモ:** Microsoft Windows オペレーティングシステムをインストールしている場合は、解凍されたドライバがオペレーティングシステムのインストール時に自動的にインストールされます。Red Hat Enterprise Linux 4.x オペレーティングシステムのインストール時には固有のドライバが使用されます。Linux のインストールが完了した後、USC または USC-LCE で解凍されたドライバを手動でインストールする必要があります。詳細については、「[Linux システムのみのドライバのアップデート](#)」を参照してください。

Linux オペレーティングシステムのインストールのクイックスタート

Linux オペレーティングシステムのインストールのクイックスタートを使用する場合は、インストール後のスクリプトで以下の情報を提供します。

- 1 OEMDRV とラベル付けされたオペレーティングシステムドライバを含む USB デバイスをマウントするコマンド 例:

```
mkdir OEMDRV

mount /dev/sdc1 /mnt/OEMDRV
```

- 1 OEMDRV ドライブ上のオペレーティングシステムドライバのパス

Red Hat Enterprise Linux の場合: /oemdrv/*.rpm

SUSE Linux Enterprise Server の場合:


/linux/suse/x86_64-sles10/install/*.rpm です。


- 1 ドライバをインストールするコマンド: rpm -Uvh *.rpm

オペレーティングシステムメディアのインストール

オペレーティングシステムメディアをインストールするには:

1. 画面の指示に従ってオペレーティングシステムのインストールメディアを挿入し、**次へ** をクリックします。


 **メモ:** USC は内部 SATA オプティカルドライブと USB オプティカルドライブをサポートしており、USC - LCE は内蔵 SATA オプティカルドライブ、USB オプティカルドライブ、および仮想メディアデバイスをサポートしています。インストールメディアが破損している場合や読み取れない場合は、USC および USC-LCE はサポートされているオプティカルドライブの存在を検出できない可能性があります。この場合は、光ドライブを使用できないというエラーメッセージが表示されます。メディアが無効の場合(たとえば間違った CD または DVD の場合)は、正しいインストールメディアの挿入を要求するメッセージが表示されます。


 **メモ:** USC - LCE のみ: 仮想メディアは iDRAC を通じてサポートされています。iDRAC による仮想メディアのセットアップの詳細については、システムの iDRAC デバイスの『ユーザーガイド』を参照してください。


システムの再起動


システムを起動するには、以下の手順に従います。


1. **終了** をクリックしてシステムを再起動し、オペレーティングシステムのインストールを続けます。再起動すると、システムは OS インストールメディアから起動します。


 **注意:** Red Hat 5.x のインストール時に、読み取り専用のファイルシステムが検出されたことを通知する警告が発せられます。「Linux は、システムのアップデートを格納する USC および USC-LCE の一時ストレージ領域を検出しました。」 OK をクリックすると、読み取り専用のファイルシステムにフォーマットする必要があるループパーティションレイアウトが存在することを示す 2 つめの警告が発せられます。Ignore drive(ドライブを無視する) ボタンをクリックします。Red Hat 5.x のインストール時に、どちらの警告も複数回表示される場合があります。


 **注意:** Windows Server® 2003 のインストール開始時に、インストーラは自動的に USC および USC-LCE 一時ストレージデバイスの OEMDRV を検出し、さらにデフォルトのドライブ文字 C を割り当てる場合があります。ハードディスク上に新しい Windows のブータブルシステムパーティションを作成すると、パーティションが C 以外のドライブ文字に割り当てられます。これは、標準的な Windows インストーラの動作です。C に新しいパーティションを割り当てる方法については、「[C: ドライブへの Windows ブータブルシステムパーティションの割り当て](#)」を参照してください。

 **メモ:** **終了** をクリックした後でシステムが再起動すると、オペレーティングシステムのインストールメディアから起動する前にキーを押すように要求されることがあります。キーを押さないと、システムはオペレーティングシステムインストールメディアではなく、ハードドライブから起動します。

 **メモ:** オペレーティングシステムのインストールが中断され、インストールの完了前にシステムが再起動した場合は、オペレーティングシステムのインストールメディアから起動するためにキーを押すように要求されることがあります。

 **メモ:** オペレーティングシステムのインストールをキャンセルするには、<F10> キーを押します。インストールプロセス中または再起動中に <F10> キーを押すと、**オペレーティングシステム導入** ウィザードが提供したドライブが削除されます。

 **メモ:** Microsoft Windows Server 2008 UEFI オペレーティングシステムのインストールは、現在サポートされていません。

 **メモ:** オペレーティングシステムをインストール後の 18 時間は、オペレーティングシステム環境で DUP を実行して USC または USC-LCE をアップデートすることができません。

Linux システムのみのドライバのアップデート

以下のオペレーティングシステムでは、解凍したドライバをインストール後にアップデートすることをお勧めします。ドライバは OEMDRV という名前のドライブに解凍されます。

- 1 Red Hat Enterprise Linux 4.8 サーバー - インストール後の OEMDRV ドライブ 上のドライバの場所は、

/oemdrv/*.rpm です。

- 1 Red Hat Enterprise Linux 5.3 サーバー - インストール後の OEMDRV ドライブ 上のドライバの場所は、

/oemdrv/*.rpm です。

- 1 SUSE Linux Enterprise Server 10 (Service Pack 2) - インストール後の OEMDRV ドライブ 上のドライバの場所は、


/linux/suse/x86_64-sles10/install/*.rpm です。

これらのドライバをインストールするには、次のコマンドを使用します。


```
rpm -Uvh *.rpm
```

C: ドライブへの Windows ブータブルシステムパーティションの割り当て

Windows Server 2003 インストールの USC または USC - LCE の部分を完了すると、サーバーは再起動し、インストールのテキストモードの部分を開始します。このフェーズでは、C: ドライブに Windows がインストールされるように、次の手順を実施する必要があります。


 **メモ:** Windows Server 2003 のセットアップ後にこの手順に従うと、コンピュータ上の既存のドライブパーティションおよびパーティションされていない領域の一覧が表示されます。

1. パーティションされていない領域を選択し、<c> キーを押して、ハードディスクパーティションを作成します。パーティションを作成するには、画面上の指示に従います。

 **メモ:** パーティションは C: ドライブとして列挙されない場合があります。

2. 新しく作成されたパーティションを選択し、<d> キーを押して、パーティションを削除します。パーティションを削除するには、画面上の指示に従います。

3. パーティションされていない領域を再び選択し、<c> キーを押して、プライマリハードディスクパーティションを作成します。

 **メモ:** このパーティションは C: ドライブとして列挙されます。

4. パーティションを作成するには、画面上の指示に従います。これで、C: ドライブに Windows がインストールされます。


C: ドライブへの Windows ブータブルシステムパーティションの割り当ての詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/896536> をご覧ください。

ハードウェア診断

デルは、システムとシステムに接続しているハードウェアが正しく機能していることを検証するために、定期メンテナンスの一環として、**ハードウェア診断**ユーティリティを使って診断を実行することを推奨します。診断ユーティリティには接続ハードウェアの物理ビューがあるため、オペレーティングシステムやその他のオンラインツールで検出できないハードウェアの問題を特定できます。ハードウェア診断ユーティリティは、メモリ、入出力装置、CPU、物理ディスク、その他の周辺装置の検証に使用できます。

ハードウェア診断の実行

ハードウェア診断ユーティリティを起動するには、左ペインの**ハードウェア診断**をクリックし、右ペインの**ハードウェア診断の実行**をクリックします。診断ユーティリティが起動したら、画面上の指示に従います。

 **メモ:** ハードウェア診断ユーティリティを終了するにはシステムを再起動する必要があり、USC または USC-LCE を再起動するには <F10> を押す必要があります。

診断テストが完了したら、結果が画面に表示されます。テスト結果には、検出された問題の説明が表示されます。この情報を用いて、デルのサポートウェブサイト(support.dell.com)上で、問題を解決するための詳細を検索できます。

ハードウェア診断ユーティリティを終了するには、<Esc> キーを押します。<Esc> キーを押すと、システムが再起動します。

ハードウェア診断ユーティリティのアップデート

USC をサポートしているシステムの場合

デルサポートサイトの support.dell.com から必要な Dell Update Package (DUP) をダウンロードします。インストールされたオペレーティングシステムで実行可能パッケージとして DUP を実行します。

USC - LCE をサポートしているシステムの場合

プラットフォームアップデート ウィザードを使って、ハードウェア診断ユーティリティをアップデートします。詳細については、「[プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート](#)」を参照してください。あるいは、デルサポートサイトの support.dell.com から必要な Dell Update Package (DUP) をダウンロードし、インストールされたオペレーティングシステムで実行可能パッケージとして DUP を実行することもできます。

USC の修復


起動時に「System Services update required (システムサービスのアップデートが必要です)」のメッセージが表示される場合は、USC が格納された内蔵デバイスのデータが破損している可能性があります。問題を解決するには、USC Dell Update Package (DUP) を実行してまず USC をアップデートする必要があります。詳細については、support.dell.com/manuals にある「Dell Update Package ユーザーズガイド」を参照してください。

USC - LCE の修復

起動時に System Services update required (システムサービスのアップデートが必要です) のメッセージが表示される場合は、USC - LCE が格納されている内蔵デバイス内のデータが破損している可能性があります。この問題を解決するには、まず USC - LCE Dell Update Package (DUP) を実行して USC - LCE をアップデートする必要があります。詳細については、support.dell.com/manuals にある「Dell Update Package ユーザーズガイド」を参照してください。DUP を実行しても問題が解決されない場合は、USC - LCE 修復パッケージを使用する必要があります。

1. ftp.dell.com → LifecycleController へ進み、USC_1.1.0_Rep_A00.usc (または新規バージョン) というファイルを一時的な場所へダウンロードする必要があります。
2. iDRAC ウェブインタフェースを使って、システム上の iDRAC に接続します。iDRAC の詳細については、『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』を参照してください。
3. iDRAC ウェブインタフェースで **リモートアクセス** をクリックします。
4. **アップデート** タブを選択して、ftp.dell.com からダウンロードした USC - LCE 修復パッケージを参照します。
5. **次へ** をクリックして OK をクリックし、アップロードを確認します。プロセスが完了するまで待つから「[手順 6](#)」に進みます。
6. システムを再起動して <F10> キーを押し、USC - LCE インタフェースを起動します。
7. 推奨されるすべてのアップデートをインストールします。詳細については、「[プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート](#)」を参照してください。アップデートが完了したら、システムは自動的に再起動します。
8. システムの再起動中にもう一度 <F10> キーを押すと、USC - LCE メニューが開きます。

始めの USC - LCE 画面に警告メッセージが表示された場合は、サーバーが完全に回復するまで「[手順 7](#)」を繰り返す必要があります。

 **メモ:** 完全なシステムリカバリに必要なアップデートは、USC - LCE で事前に選択されています。Dell は、ご利用のシステムに対して選択されたすべてのアップデートを実行することを強く推奨します。


iDRAC6 Express カードのアップグレード方法

本項では、iDRAC6 Express カードをインストールし、iDRAC6 Express カードをシステム間で移動させ、iDRAC6 Express カードをアンインストールする方法について説明します。このハードウェアアップグレードでは、USC から USC - LCE へのアップグレードも行われます。

 **メモ:** これは、Dell System Series 200~500 のみに適用可能です。

iDRAC6 Express カードの取り付け

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。

 **メモ:** システムの残留電力を放電するために電源ボタンを一度押します。


2. iDRAC6 Express カードを iDRAC6 Express スロットに挿入します。iDRAC6 Express カードのインストールの詳細については、システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。
3. システムおよび周辺機器をそれぞれの電源に接続します。

iDRAC は自動的に起動します。システムの電源を入れる前に、iDRAC が完全に起動するまで 1 分間待ちます。

4. システムの電源を入れて、<F10> を押し、USCを起動します。

USC はシステムに取り付けられた iDRAC6 Express カードを自動的に検出して、アップグレードプロセスを完了します。


インストールに成功したら、Unified Server Configurator - Lifecycle Controller Enabled を起動できます。

 **メモ:** インストールに失敗した場合は、iDRAC をアップグレードする必要があります。詳細については、『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。iDRAC をアップグレードした後、上記の手順を繰り返します。

iDRAC6 Express カードを既存のシステムから別のシステムに移動する


iDRAC6 Express カードを別のシステムに移動すると、

1. 新しいシステム上でロールバック機能は使えません。詳細については、「[BIOS およびファームウェアの以前のバージョンへのロールバック](#)」を参照してください。
1. 実行保留中の USC-LCE タスクは、新しいシステムではすべて削除されます。
1. **プラットフォームアップデート** ウィザードを実行して、新しいシステム用の適切なドライバーパックをダウンロードします。

 **メモ:** iDRAC6 Express カードを別の Dell システムへ移動すると、ドライバーパックは削除されます。例えば、iDRAC6 Express カードを Dell R410 システムから Dell T410 システムに移動した場合、ドライバーパックが削除されます。

iDRAC6 Express カードのアンインストール

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。

 **メモ:** システムの残留電力を放電するために電源ボタンを一度押します。


2. iDRAC6 Express カードを iDRAC6 Express スロットから抜き取ります。iDRAC6 Express カードのインストールの詳細については、システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。
3. システムおよび周辺機器をそれぞれの電源に接続します。
4. システムの電源を入れて、<F10> を押し、USCを起動します。

Unified Server Configurator - Lifecycle Controller Enabled 固有の機能

本章では、USC - LCE でしか利用できない機能について説明します。USC と USC - LCE で共通する機能については、「[共通の機能](#)」を参照してください。

プラットフォームアップデートウィザードを使用したプラットフォームのアップデート

プラットフォームアップデートウィザードを使用して、インストールされたアプリケーションの現行バージョンおよびファームウェア情報を表示します。プラットフォームアップデートウィザードを使用して、システムで使用可能なアップデートのリストを表示できます。適用するアップデートを選択すると、USC - LCE によりアップデートが自動的にダウンロードされて適用されます。

 **メモ:** 最適なシステムパフォーマンスを確保し、システムの問題を回避するために、デルは定期的にアップデートをダウンロードして適用することを推奨します。

プラットフォームアップデートウィザードを実行するには、デルのファイル転送プロトコル (FTP) サーバー <ftp.dell.com> にアクセスできることが必要です。あるいは、システム管理者がローカル USB デバイスまたは『Dell Server Update Utility DVD』でアップデートを提供する場合があります。会社でアップデートにアクセスする方法については、システム管理者に確認してください。詳細については、「[ローカル FTP サーバーの設定](#)」を参照してください。

 **メモ:** アップデート方法として FTP を使用する場合、アップデートへアクセスする前に USC - LCE **USC S設定**ウィザードを使用してネットワークカードを設定する必要があります。詳細については、「[USC 設定ウィザードの使用](#)」を参照してください。

現在のバージョンに関する情報の表示


1. システムを起動し、Dell のロゴが表示されて 10 秒以内に <F10> キーを押します。
2. 左ペインで **プラットフォームアップデート** をクリックします。
3. 右ペインの **現行バージョンの表示** をクリックします。

プラットフォームアップデートウィザードを起動します。

1. システムを起動し、Dell ロゴが表示されて 10 秒以内に <F10> キーを押します。
2. 左ペインで **プラットフォームアップデート** をクリックします。
3. 右ペインで **プラットフォームアップデート** をクリックします。

ダウンロード方法の選択


プラットフォームアップデートウィザードを使用して <ftp.dell.com> のデルの FTP サーバーからアップデートをダウンロードするか、ローカル FTP サーバー、ローカル USB デバイスまたは『Dell Server Updates DVD』からダウンロードすることができます。

 **メモ:** ローカル FTP サーバーまたはデルの FTP サーバー および USB デバイスのテキストボックスおよびドロップダウンメニューを有効にするには、対応する FTP サーバーまたはローカルドライブチェックボックスを選択します。

1. FTP サーバーまたはローカルドライブを選択します。


FTP サーバー

FTP サーバーを選択し、プラットフォームアップデートウィザードを使用して設定済みの FTP サーバーからアップデートをダウンロードします。FTP サーバーへのアクセス方法に基づいて、適切な情報を入力します。

 **メモ:** ファイアウォールを使用している場合は、ポート 21 で外向きの FTP トラフィックを許可するように設定します。また、FTP の応答トラフィックの受信を許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。

プロキシサーバーを使って FTP サーバーにアクセスし、アップデートをダウンロードするには、以下を指定します。

- **アドレス** - ローカル FTP サーバーの IP アドレスまたは ftp.dell.com
- **プロキシサーバー** - プロキシサーバーのサーバーホスト名
- **プロキシポート** - プロキシサーバーのポート番号
- **プロキシタイプ** - プロキシサーバーの種類

 **メモ:** HTTP および SOCKS 4 プロキシタイプは USC - LCE でサポートされています。

- **プロキシユーザー名** - プロキシサーバーでの認証に必要なユーザー名
- **プロキシパスワード** - プロキシサーバーでの認証に必要なパスワード

ローカルドライブ

ローカル USB デバイスまたは『Dell Server Updates DVD』からアップデートにアクセスする場合、**ローカルドライブ**を選択します。**ローカルドライブ**ドロップダウンメニューから適切なボリュームラベルを選択します。

詳細については、「[ローカル USB デバイスの設定](#)」を参照してください。


2. **次へ** をクリックします。

アップデートの選択と適用

アップ アップデートの選択 画面に使用可能なアップデートのリストが表示されます。


1. システムに適用する各アップデートのチェックボックスを選択します。新しいアップデートのあるコンポーネントがデフォルトで選択されています。


アップデートのバージョンを現在システムにインストールされているバージョンと比較するには、**現在** と **利用可能** フィールド内のバージョンを比較します。


 **メモ:** 文字列の終りの省略記号 (...) は、コンポーネントの名前が完全に表示されていないことを示します。詳細情報を表示するには、対象のフィールドを選択します。情報は、比較レポートの下に表示されます。

- 1 **コンポーネント** - 使用可能なアップデートが表示されます。適用する各アップデートのチェックボックスを選択します。
- 1 **現在** - 現在システムにインストールされているコンポーネントのバージョンが表示されます。
- 1 **利用可能** - 使用可能なアップデートのバージョンを表示します。

2. **適用** をクリックします。


 **メモ:** アップデートプロセスの完了後、システムが再起動します。複数のアップデートを適用する場合は、アップデートごとに再起動する可能性があります。この場合、システムは直接 USC - LCE から起動して、アップデートプロセスが継続されます。システムが再起動してアップデートプロセスを完了する間、ユーザーの操作は不要です。

 **メモ:** iDRAC ファームウェアアップデートが何らかの理由で中断されると、次にファームウェアアップデートを行う前に、最長 30 分間まで待たなければならない場合があります。


 **メモ:** USC-LCE は、外部ストレージ用の PERC 5/E Adapter、テープ用の SAS 5i/R Adapter、PERC S100 および PERC S300 Adapter、さらに Intel™ NIC Adapter のアップデートまたはロールバックをサポートしていません。


BIOS およびファームウェアの以前のバージョンへのロールバック

USC - LCE を使用することで、以前にインストールした BIOS またはファームウェアのバージョンにロールバックすることができます。デルは、現在インストールされているバージョンに問題があり、以前にインストールしたバージョンに戻りたい場合に、この機能を利用することをお勧めします。

 **メモ:** BIOS およびファームウェアのみ、ロールバックすることができます。USC - LCE、ハードウェア 診断アプリケーション、およびオペレーティングシステム(OS)のインストールに必要なドライバは、過去のバージョンにロールバックすることはできません。

この機能は、BIOS およびファームウェアのアップデートに USC - LCE アップデート機能を利用したことがある場合、またはポスト OS Dell アップデートパッケージを使用して、システム BIOS またはファームウェアをアップデートした場合にのみ利用できます。その他のアップデート方法を利用した場合、この機能は使用できません。

 **メモ:** 電源ファームウェアは、ポスト OS Dell アップデートパッケージを使用してアップデートされた場合、ロールバックイメージの作成をサポートしません。

 **メモ:** システム BIOS またはファームウェアを一度のみアップデートしたことがある場合、ロールバック機能は、工場出荷時の BIOS またはファームウェアイメージに戻すオプションを提供します。BIOS またはファームウェアを 2 度以上アップデートしたことがある場合は、工場出荷時のイメージは上書きされているため、戻すことはできません。

ロールバックウィザードの起動

1. システムを起動して、USC - LCE を立ち上げます。Dell ロゴが表示されたら、10 秒以内に <F10> キーを押します。


2. 左ペインで **プラットフォームアップデート** をクリックします。
3. 右ペインで **プラットフォームアップデートの開始** をクリックします。

ロールバックの選択と適用

プラットフォームロールバック画面は利用可能なロールバックコンポーネントのリストを表示します。


1. システムに適用する各ロールバックイメージのチェックボックスを選択します。

ロールバックイメージのバージョンと現在システムにインストールされているバージョンを比較するには、**現在** と **以前** フィールド内のバージョンを比較します。

 **メモ:** 文字列の終りの省略記号(...) は、コンポーネントの名前が完全に表示されていないことを示します。詳細情報を表示するには、対象のフィールドを選択します。情報は、比較レポートの下に表示されます。

- 1 **コンポーネント** - 利用可能なアップデートが表示されます。適用する各アップデートのチェックボックスを選択します。
- 1 **現在** - 現在システムにインストールされているコンポーネントのバージョンが表示されます。
- 1 **以前** - ロールバックイメージのバージョンが表示されます。

2. **適用** をクリックします。

 **メモ:** アップデートプロセスの完了後、システムが再起動します。複数のアップデートを適用する際は、アップデートごとにシステムを再起動する必要がある場合があります。この場合、システムは直接 USC - LCE から起動して、アップデートプロセスが続行されます。これは無人アップデートプロセスです。

Trusted Platform Module 設定に影響を及ぼすデバイスのアップデート

システム上で BitLocker プロテクションが有効になっている場合、一部のコンポーネントをアップデートする際、次のシステム起動時にリカバリパスワードの入力、またはリカバリキーが含まれる USB フラッシュドライブの挿入が求められます。これは、Trusted Platform Module (TPM) セキュリティ設定が **On with Pre-boot Measurements (起動前測定ありでオン)** になっている場合に起きます。

 **メモ:** TPM 設定の設定方法については、support.dell.com/manuals の『BIOS ユーザーガイド』を参照してください。


TPM セキュリティが **On with Pre-boot Measurements (起動前測定ありでオン)** に設定されていることを USC - LCE が検知すると、特定のアップデートには、リカバリパスワードまたはリカバリキーが含まれる USB フラッシュドライブが必要となることを示す警告メッセージが表示されます。また、警告メッセージには、どのコンポーネントが BitLocker に影響を及ぼしているかも知らせます。

この場合、それらのコンポーネントをアップデートしない、つまりロールバックすることができます。これには、**Select Updates (アップデートの選択)** 画面で、該当するコンポーネントのチェックボックスを選択解除します。

ハードウェア構成

USC - LCE は、ハードウェアの設定に 2 つの異なる方法を提供しています。どちらの方法もメインの **ハードウェア構成** 画面から利用できます。

- 1 **設定ウィザード** では、システムデバイスの設定方法を順番に説明します。設定ウィザードには、物理セキュリティ設定、システム日時設定、iDRAC 設定および RAID 設定が含まれます。
- 1 **詳細設定** では、ヒューマンインタフェースインフラストラクチャ(HII)を使用して、ネットワークインタフェースコントローラ(NIC)および BIOS などの特定のデバイスを設定できます。

 **メモ:** 詳細設定の機能をご利用になる前に、HII の影響を十分に理解するようにしてください。HII は UEFI 標準の一部であり、USC - LCE は UEFI バージョン 2.1 に準拠しています。詳細については、「[詳細設定](#)」を参照してください。

物理セキュリティ設定

システムコントロールパネルへのアクセスを制御するには、**物理セキュリティ設定**ウィザードを使用します。

物理セキュリティ設定ウィザードを起動するには:

1. 左ペインの **ハードウェア構成** をクリックします。
2. 右ペインの **設定ウィザード** をクリックします。
3. **物理セキュリティ設定** をクリックしてウィザードを立ち上げます。
4. **システムコントロールパネルアクセス** を以下のいずれかのオプションでもって設定します。
 - 1 **Disabled (無効)** - 管理コントローラによって表示される情報を除き、情報へのアクセスおよび制御はできません。また、処置も指定できません。
 - 1 **View Only (表示のみ)** - システムコントロールパネルのインタフェースを使用して、データ画面を移動し、情報を取得できます。
 - 1 **View and Modify (表示および変更)** - システムコントロールパネルのインタフェースを使用して、情報の取得および変更ができます。

5. 変更を適用するには、**完了** をクリックします。

設定ウィザード 画面に戻るには、**戻る** をクリックします。

ウィザードを終了するには、**キャンセル** をクリックします。

システム日時設定

システムの日付および時間を設定するには、**システム日時設定**ウィザードを使用します。

システム日時設定ウィザードを起動するには:

1. 左ペインの **ハードウェア構成** をクリックします。
2. 右ペインの **設定ウィザード** をクリックします。
3. **システム日時設定** をクリックして、ウィザードを立ち上げます。

USC - LCE に表示されるデフォルトのシステム日付およびシステム時間は、システム BIOS によって知らされる日時です。

4. 必要に応じて、**システム日付** および **時間** (HH:MM:SS AM/PM) の値を変更します。
5. 変更を適用するには、**完了** をクリックします。

設定ウィザード 画面に戻るには、**戻る** をクリックします。

ウィザードを終了するには、**キャンセル** をクリックします。

iDRAC 設定

iDRAC パラメータを設定、管理するには、**iDRAC 設定**ウィザードを使用します。

このウィザードは、レガシーな BIOS 操作における iDRAC 設定ユーティリティと似ています。ウィザードを使用して、LAN、共通 IP 設定、IPv4、IPv6、仮想メディアおよび LAN ユーザー設定など、システムに適用できる iDRAC パラメータを設定できます。

iDRAC 設定ウィザードを起動するには:

1. 左ペインの **ハードウェア構成** をクリックします。
2. 右ペインの **設定ウィザード** をクリックします。
3. **iDRAC 設定** をクリックして、ウィザードを立ち上げます。

以下のステップでは、**iDRAC 設定**ウィザードの使用方法を順を追って説明します。

- a. [「LAN 設定」](#)
- b. [「詳細 LAN 設定」](#)
- c. [「共通の IP 設定」](#)
- d. [「IPv4 設定」](#)
- e. [「IPv6 設定」](#)
- f. [「仮想メディアの設定」](#)
- g. [「LAN ユーザー設定」](#)
- h. [「確認」](#)


LAN 設定

iDRAC LAN、IPMI オーバー LAN、MAC アドレス、および NIC の選択を表示または設定します。


1. **iDRAC LAN** - iDRAC NIC を有効または無効にします。iDRAC LAN を無効にすると、残りの制御部分も無効になります。
1. **IPMI オーバー LAN** - iDRAC ローカルエリアネットワーク (LAN) チャネル上で IPMI (Intelligent Platform Management Interface) コマンドを有効または無効にします。
1. **MAC アドレス** - ネットワーク上の各ノードを一意的に識別する MAC (Media Access Control) アドレスを表示できます。(読み取り専用)
1. **NIC の選択** - 次のモードオプションを使用して、NIC モードを表示または編集できます。
 - **専用** - このオプションを選択すると、リモートアクセスに Dell リモートアクセスコントローラ (DRAC) 上の専用ネットワークインタフェースを使用できます。DRAC インタフェースは、ホストオペレーティングシステムと共有されず、管理トラフィックを別の物理ネットワークにルーティングするため、アプリケーショントラフィックから分離することができます。

 **メモ:** このオプションは、システムに iDRAC6 Enterprise コントローラが搭載されている場合にのみ、利用可能です。

- **Shared with failover(フェールオーバーありで共有)** - このオプションは、ネットワークインタフェースをホストオペレーティングシステムと共有する場合に選択します。リモートアクセスデバイスのネットワークインタフェースは、ホストオペレーティングシステムに NIC チームを設定すると完全に機能します。リモートアクセスデバイスは、マザーボードの LOM 1 および LOM 2 上の LAN を介してデータを受信しますが、データの送信は LOM 1 を介してのみ行われます。LOM 1 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてを LOM 2 にフェールオーバーします。リモートアクセスデバイスはデータの送信に LOM 2 を引き続き使用します。LOM 2 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてを LOM 1 にフェールオーバーし戻します。
- **フェールオーバーありで共有 (LOM2)** - このオプションは、ネットワークインタフェースをホストのオペレーティングシステムと共有する場合に選択します。リモートアクセスデバイスネットワークインタフェースは、ホストオペレーティングシステムが NIC チーム用に設定されている場合に完全に機能します。リモートアクセスデバイスは、マザーボードの LOM 1 および LOM 2 上の LAN を介してデータを受信しますが、データの送信は LOM 2 を介してのみ行われます。LOM 2 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてを LOM 1 にフェールオーバーします。リモートアクセスデバイスはデータの送信に LOM 1 を引き続き使用します。LOM 1 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータ伝送のすべてをまた LOM 2 にフェールオーバーします。

 **メモ:** 片方の LOM が故障した後で復元した場合、iDRAC ハードウェア構成ウィザードを介して NIC の選択を変更することで、元の LOM 設定に手動で戻すことができます。


- **フェールオーバーで共有(すべての LOM)** - このオプションは、ネットワークインタフェースをホストのオペレーティングシステムと共有する場合に選択します。リモートアクセスデバイスネットワークインタフェースは、ホストオペレーティングシステムが NIC チーム用に設定されている場合に完全に機能します。リモートアクセスデバイスは、データの受信は NIC 1、NIC 2、NIC 3、NIC 4 で行いますが、データの送信は NIC 1 からのみ行います。NIC 1 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータを NIC 2 へ送信します。NIC 2 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータを NIC 3 へ送信します。NIC 3 が故障した場合、リモートアクセスデバイスはデータを NIC 4 へ送信します。NIC 4 が故障した場合、リモートアクセス デバイスはすべての送受信を再び NIC 1 にフェールオーバーします。ただし、これは最初の NIC 1 の障害が修復されている場合に限りです。

 **メモ:** フェールオーバーで共有 - すべての LOM オプションは iDRAC6 Enterprise コントローラでは利用できない場合があります。


詳細 LAN 設定

1. VLAN、VLAN ID、VLAN 優先度、オートネゴシエート、LAN スピード、LAN デュプレックスなどの追加の属性を設定します。

- 1 **VLAN** - VLAN モードによる操作およびパラメータを有効または無効にします。VLAN を有効にした場合、一致する VLAN ID のトラフィックのみが許可されます。無効にした場合、VLAN ID および VLAN 優先度は利用できなくなり、それらパラメータに設定された値は無視されます。
- 1 **VLAN ID** - VLAN ID の値を設定します。IEEE 801.1g 仕様で定義されるように、1 から 4094 の有効な値を設定する必要があります。
- 1 **VLAN 優先度** - VLAN ID の優先度の値を設定します。IEEE 801.11g 仕様で定義されるように、0 から 7 の有効な値を設定する必要があります。
- 1 **オートネゴシエート** - オートネゴシエート機能をオンまたはオフにします。オートネゴシエートをオンにすると、iDRAC は最も近いルーターまたはハブと通信して、**デュプレックスモード** および **ネットワークスピード** の値を自動的に設定します。オートネゴシエートをオフにすると、手動で **デュプレックスモード** および **ネットワークスピード** の値を設定する必要があります。
- 1 **LAN スピード** - ユーザーのネットワーク環境と一致するように、ネットワークスピードを 100MB または 10MB に設定します。

 **メモ:** オートネゴシエーションが **オン** の場合、このオプションは使用できません。

- 1 **LAN デュプレックス** - ユーザーのネットワーク環境と一致するように、デュプレックスモードを **全二重** または **半二重** に設定します。

 **メモ:** オートネゴシエーションが **オン** の場合、このオプションは使用できません。

2. 設定を保存し、LAN 設定 メニューに戻るには、OK をクリックします。

3. 「[共通の IP 設定](#)」へ進むには、**次へ** をクリックします。

共通の IP 設定

iDRAC の名前の登録、DHCP からのドメイン名の設定、ドメイン名およびホスト名の文字列の指定を行います。

- 1 **iDRAC 名の登録** - **はい** に設定した場合、iDRAC 名はドメインネームシステム(DNS)に登録されます。**いいえ** に設定した場合、登録は行われません。
- 1 **iDRAC 名** - DNS への登録時に使用する iDRAC 名を表示または編集できます。iDRAC 名の文字列には、最大 63 個の印刷可能な ASCII 文字を使用できます。iDRAC 名の登録が **いいえ** に設定されている場合、iDRAC 名の文字列を編集できます。このフィールドの情報は、iDRAC ファームウェアのアップデート後に削除されます。
- 1 **DHCP からのドメイン名** - **はい** にした場合、iDRAC は DHCP サーバーからドメイン名を取得します。**いいえ** に設定した場合、手動でドメイン名を入力する必要があります。
- 1 **ドメイン名** - DHCP から取得しない場合、iDRAC ドメイン名の表示および編集ができます。DHCP からのドメイン名を **いいえ** に設定している場合、ドメイン名を指定できます。このフィールドの情報は、iDRAC ファームウェアのアップデート後に削除されます。
- 1 **ホスト名文字列** - iDRAC に関連付けられるホスト名の指定または編集ができます。このフィールドの情報は、iDRAC がオリジナルのデフォルトにリセットされた場合、または iDRAC ファームウェアがアップデートされると削除されます。**ホスト名** の文字列には、最大 62 印刷可能な ASCII 文字を使用できます。

「[IPv4 設定](#)」へ進むには、**次へ** をクリックします。

IPv4 設定

IPv4 を有効または無効にし、RMCP+ 暗号化キー、IP アドレスソース、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、および DNS サーバーの値を設定します。

- 1 IPv4 - iDRAC NIC IPv4 プロトコルサポートを有効または無効にします。IPv4 を無効にすると、残りの制御部分も無効になります。
- 1 RMCP+ 暗号化キー - 0 から 40 の 16 進法の文字列(空白スペースはなし)で RMCP+ 暗号化キーを設定します。デフォルト設定は、すべてゼロ(0)です。
- 1 IP アドレスソース - iDRAC NIC の DHCP サーバーからの IPv4 アドレスの取得を有効または無効にします。Ethernet IP アドレス、サブネットマスク および デフォルトゲートウェイの制御を有効または無効にします。
- 1 Ethernet IP アドレス - iDRAC NIC の静的 IPv4 アドレスを指定または編集できます。Ethernet IP アドレスフィールドに入力する IP アドレスは予約され、DHCP から IP アドレスを解決し割り当てることができない場合のみに使用されます。Ethernet IP アドレスフィールドの最大値は 255.255.255.255 に制限されています。
- 1 サブネットマスク - iDRAC NIC の静的サブネットマスクを指定または編集できます。サブネットマスクは、IPv4 アドレスにおける上位ビットの位置を定義します。サブネットマスク文字列は、上位ビットがすべて 1 で、下位ビットがすべてゼロであるネットマスク形式です。例:255.255.255.0 サブネットマスクフィールドの最大値は 255.255.255.255 に制限されています。
- 1 デフォルトゲートウェイ - iDRAC NIC の静的 IPv4 デフォルトゲートウェイを指定または編集できます。ローカルで解決できない要求は、このアドレスにルーティングされます。デフォルトゲートウェイフィールドの最大値は 255.255.255.255 に制限されています。
- 1 DHCP からの DNS サーバーの取得 - はいに設定した場合、iDRAC NIC はドメインネームシステム(DNS)サーバー情報を DHCP サーバーから取得し、DNS サーバー 1 および DNS サーバー 2 の制御を無効にします。いいえに設定した場合、iDRAC NIC は DHCP サーバーから DNS サーバー情報を取得しないため、手動で DNS サーバー 1 および DNS サーバー 2 フィールドに入力する必要があります。
- 1 DNS サーバー 1 - プライマリ DNS サーバーの静的 IPv4 アドレスを指定または編集できます。この IPv4 アドレスは、名前から IPv4 アドレスの解決に使用される DNS サーバーのアドレスです。DNS サーバー 1 フィールドの最大値は 255.255.255.255 に制限されています。
- 1 DNS サーバー 2 - セカンダリ DNS サーバーの静的 IPv4 アドレスを指定または編集できます。DNS サーバー 1 が名前解決できない場合、バックアップとして、DNS サーバー 2 の IPv4 アドレスが名前から IPv4 アドレスの解決に使用されます。このフィールドの最大値は 255.255.255.255 に制限されています。

「IPv6 設定」へ進むには、**次へ** をクリックします。

IPv6 設定

IPv6、IP アドレスソース、ethernet IP アドレス、IPv6 アドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイおよび DNS サーバー値を設定します。

- 1 IPv6 - iDRAC NIC IPv6 プロトコルサポートを有効または無効にします。IPv6 を無効にすると、残りの制御部分も無効になります。
- 1 IP アドレスソース - iDRAC NIC が DHCP サーバーから IPv6 アドレスを取得する能力を有効または無効にします。IP アドレスソースを無効にすると、Ethernet IP アドレス、プレフィックス長 および デフォルトゲートウェイの制御も無効になります。
- 1 Ethernet IP アドレス - DHCP から提供されない場合に、iDRAC NIC の静的 IPv6 アドレスを指定または編集できます。このフィールドの最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF に制限されています。マルチキャスト (ff00:/8) およびループバック (::1/128) の値は、Ethernet IP アドレスおよび本項で説明されるその他のアドレス関連フィールドの有効なアドレスではありません。

サポートされる IPv6 アドレスの形式:

- X:X:X:X:X:X:X - この形式では、X は 16 進数値で、アドレスは 8 つの 16 ビットの部分で構成されます。各フィールドの最初のゼロは省くことができますが、各フィールドに少なくとも 1 つの数値を入力する必要があります。
- :: (2 つのコロン) - この形式を使用することで、連続的なゼロの文字列を省略できます。「::」は、アドレス中で一度しか使用できません。また、アドレスを指定しない場合には、0:0:0:0:0:0:0:0 と表すことができます。
- x:x:x:x:x:d.d.d.d - IPv4 および IPv6 ノードの混在環境において、この形式は便利な場合があります。x は、アドレスにおける上位 6 つの 16 ビット部分の 16 進法の値を表します。d は、下位 4 つの 8 ビット部分の 10 進法の値(IPv4 の標準形式)を表します。
- 1 プレフィックス長 - IPv6 アドレスにおいて、プレフィックスとして使用する上位ビット数を指定または変更できます。プレフィックス長の最大長は 128 ビットです。Ethernet IP アドレスのプレフィックス長のビット数が、iDRAC NIC が属する IPv6 ネットワークのネットマスクとなります。上位ビットが定義されるほど、ネットワークにおいて、指定したプレフィックスで利用できる IPv6 アドレスの数が少なくなります。
- 1 デフォルトゲートウェイ - DHCP から提供されない場合に、iDRAC NIC の静的 IPv6 デフォルトゲートウェイを指定または編集できます。ローカルで解決できない要求は、このアドレスにルーティングされます。デフォルトゲートウェイフィールドの最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF に制限されています。
- 1 DHCP からの DNS サーバーの取得 - はいに設定した場合、iDRAC NIC はドメインネームシステム(DNS)サーバー情報を DHCP サーバーから取得し、DNS サーバー 1 および DNS サーバー 2 の制御を無効にします。いいえに設定した場合、iDRAC NIC は DHCP サーバーから DNS サーバー情報を取得しないため、手動で DNS サーバー 1 および DNS サーバー 2 フィールドに入力する必要があります。
- 1 DNS サーバー 1 - DHCP から提供されない場合に、プライマリ DNS サーバーの静的 IPv6 アドレスを指定または編集できます。DNS サーバー 1 フィールドの最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF に制限されています。この IPv6 アドレスは、名前から IPv6 アドレスの解決に使用される DNS サーバーのアドレスです。
- 1 DNS サーバー 2 - DHCP から提供されない場合に、セカンダリ DNS サーバーの静的 IPv6 アドレスを指定または編集できます。DNS サーバー 1 が名前解決できない場合、バックアップとして、DNS サーバー 2 の IPv6 アドレスが名前から IPv6 アドレスの解決に使用されます。DNS サーバー 2 フィールドの最大値は、FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF に制限されています。

「仮想メディアの設定」へ進むには、**次へ** をクリックします。

仮想メディアの設定

仮想メディアおよび仮想フラッシュのパラメータを設定します。





メモ: 仮想メディアおよび仮想フラッシュの機能は、システムに iDRAC 6 Enterprise が含まれる場合のみに、使用可能です。仮想フラッシュの機能は、SD カードが取り付けられ、iDRAC において有効になっている場合のみ、使用可能です。

- 1 仮想メディア - 連結、自動連結または分離モードを選択します。連結に設定した場合、現在の操作環境において、仮想メディアデバイスを使用することができます。仮想メディアは、フロッピーイメージまたはドライブがローカルシステム上に存在(連結または接続)するかのよう、管理下システムのコンソールからフロッピーイメージ、フロッピードライブまたは CD/DVD ドライブへのアクセスを可能にします。分離と設定した場合、仮想メディアデバイスにアクセスできません。自動連結に設定した場合、ユーザーがメディアを物理的に接続するたびに、仮想メディアデバイスは自動的にサーバーにマッピングされます。

 **メモ:** サポートされている仮想メディアデバイスの詳細については、support.dell.com/manuals から入手可能な『**Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド**』を参照してください。

- 1 **仮想フラッシュ** - iDRAC ファイルシステムに常駐するフラッシュメモリの使用を有効または無効にします。このメモリは、システムによってアクセスされる永続的なストレージとして利用できます。**有効** に設定した場合、仮想フラッシュカードは仮想ドライブとして設定され、起動順序を変更して仮想フラッシュカードから起動することが可能になります。**無効** に設定した場合、仮想フラッシュにアクセスできません。

 **メモ:** 仮想フラッシュから起動するには、仮想フラッシュイメージがブータブルイメージでなければなりません。iDRAC の仮想フラッシュ機能を利用するには、256MB 以上の容量を持つフォーマットされた SD カードが必要となります。この機能は、SD カードに有効なイメージが存在する場合のみ、有効にできます。詳細については、ご利用のシステムの iDRAC デバイスのユーザーガイドを参照してください。

 **メモ:** 仮想フラッシュパーティションには、デル製の vFlash メディアが必要となります。

「[LAN ユーザー設定](#)」へ進むには、**次へ** をクリックします。

LAN ユーザー設定

アカウントアクセス、アカウント関連の属性、およびスマートカード認証を設定します。

- 1 **アカウントアクセス** - アカウントアクセスを有効または無効にします。アカウントアクセスを無効にすると、**LAN ユーザー設定** 画面上の他のフィールドも無効になります。
- 1 **アカウントユーザー名** - iDRAC ユーザー名を修正できます。**アカウントユーザー名** フィールドでは、印刷可能な ASCII 文字を最大 16 文字使用できます。
- 1 **パスワード** - システム管理者は、iDRAC ユーザーのパスワードを指定または編集できます。**パスワード** 文字列は暗号化されるため、このプロパティの設定後、表示させることはできません。**パスワード** フィールドには、最大 20 文字まで入力できます。
- 1 **パスワードの確認入力** - 確認のために、iDRAC ユーザーパスワードを再入力します。
- 1 **アカウント特権** - IPMI LAN チャネル上のユーザーの最大特権を Administrator(システム管理者)、Operator(オペレータ)、User(ユーザー)または No Access(アクセスなし)のいずれかのユーザーグループに割り当てます。
 - **Administrator(システム管理者)** - 特権: iDRAC へのログイン、iDRAC の設定、ユーザー設定、ログのクリア、サーバー制御コマンドの実行、コンソールリダイレクトへのアクセス、仮想メディアへのアクセス、テスト警告、診断コマンドの実行。
 - **Operator(オペレータ)** - 特権: iDRAC へのログイン、iDRAC の設定、ユーザー設定、サーバー制御コマンドの実行、コンソールリダイレクトへのアクセス、仮想メディアへのアクセス、テスト警告、診断コマンドの実行。
 - **User(ユーザー)** - 特権: iDRAC へのログイン
 - **No Access(アクセスなし)** - 権限なし
- 1 **スマートカード認証** - iDRAC ログインに対して、スマートカード認証を有効または無効にします。有効にした場合、iDRAC にアクセスできるようにスマートカードを取り付ける必要があります。
 - **Enabled(有効にする)** - スマートカードログインを有効にすると、SSM、Telnet、シリアル、リモート RACADM および IPMI オーバー LAN などを含むすべてのコマンドライン帯域外インタフェースが無効になります。
 - **Disabled(無効にする)** - グラフィカルユーザーインタフェース(GUI)からの次回からのログイン時に、通常のログインページが表示されます。SSH、Telnet、シリアル、および RACADM を含むすべてのコマンドライン帯域外インタフェースは、デフォルトの状態に設定されます。
 - **Enabled with RACADM(RACADM で有効にする)** - RACADM でスマートカードログインを有効にすると、SSM、Telnet、シリアル、リモート RACADM および IPMI オーバー LAN を含むすべてのコマンドライン帯域外インタフェースが無効になります。ただし、RACADM アクセスは許可されます。

「[概要](#)」へ進むには、**次へ** をクリックします。

概要

iDRAC 設定変更の要約を表示します。

「[確認](#)」へ進むには、**次へ** をクリックします。

確認

Summary(概要) 画面で変更点を確認します。変更を適用するか、またはすべての変更をキャンセルし、iDRAC **設定**ウィザードを終了できます。変更を適用すると、変更が保存される間、Please Wait (お待ちください) のメッセージが表示されます。処理が完了すると、**Confirmation(確認)** 画面が表示され、変更の適用に成功したか、変更されなかったか、あるいは失敗したかが示されます。

設定を保存し、メインのウィザード画面に戻るには、**Finish(完了)** をクリックします。

RAID 構成

システムに 1 つ以上の対応 PERC RAID コントローラ(PERC 6.1 以上のファームウェア)または SAS RAID コントローラが搭載されている場合、**RAID 設定**ウィザードを使用して、仮想ディスクを起動デバイスとして設定できます。

RAID 設定ウィザードを起動するには:

1. 左ペインの **ハードウェア構成** をクリックします。
2. 右ペインの **設定ウィザード** をクリックします。

3. RAID 設定 をクリックして、ウィザードを立ち上げます。

以下のステップでは、RAID 設定ウィザードの使用方法を順を追って説明します。

- a. [「現在の設定の表示」](#)
- b. [「RAID コントローラの選択」](#)
- c. [「外部設定が検出されました」](#)
- d. [「簡易設定ウィザードまたは詳細設定ウィザードの選択」](#)
- e. [「基本設定の選択」](#)
- f. [「簡易設定ウィザードのみ - ホットスベアの割り当て」](#)
- g. [「簡易設定ウィザードのみ - サマリの確認」](#)
- h. [「詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの選択」](#)
- i. [「詳細ウィザードのみ - 追加設定」](#)
- j. [「詳細設定ウィザードのみ - 概要の確認」](#)


現在の設定の表示

現在の設定を表示 画面に、システムに接続しているサポートされる RAID コントローラで既に設定されている仮想ディスクの属性が表示されます。2 つのオプションが用意されています。

- 1 変更を加えることなく、既存の仮想ディスクを受け入れる。このオプションを選択する場合は、**戻る** をクリックします。

 **メモ:** オペレーティングシステムを既存の仮想ディスクにインストールする場合は、仮想ディスクのサイズと RAID のレベルが適切であることを確認してください。

- 1 既存のすべての仮想ディスクを削除し、RAID 設定ウィザードを使用して、新しい起動デバイスとして使用する単一の新しい仮想ディスクを作成します。このオプションを選択する場合は、**次へ** をクリックします。

 **メモ:** RAID 0 はデータの冗長性を提供しません。その他の RAID レベルでは、データの冗長性が提供されるため、ディスクが故障してもデータを再構築できる場合があります。

RAID コントローラの選択

RAID コントローラの選択 画面に、システムに接続しているすべてのサポートされる RAID コントローラが表示されます。仮想ディスクを作成したい RAID コントローラを選択し、**次へ** をクリックします。

外部設定が検出されました

外部設定が検出されました 画面は、選択した RAID コントローラに外部設定がある場合にのみ表示されます。

外部設定とは、システムに導入されていても、連結している RAID コントローラでまだ管理されていない RAID 設定が含まれた一連の物理ディスクです。別のシステムの RAID コントローラから現在のシステムの RAID コントローラに物理ディスクが移された場合に、外部設定が含まれている可能性があります。

Ignore Foreign Configuration (**外部設定を無視する**) および Clear Foreign Configuration (**外部設定をクリアする**) の 2 つのオプションから選択できます。


- 1 外部設定に、保存したいデータが含まれる場合は、Ignore Foreign Configuration (**外部設定を無視する**) を選択します。このオプションを選択すると、外部設定が保存されているディスク領域を新しい仮想ディスクで使用することはできません。
- 1 外部設定を含む物理ディスク上のすべてのデータを削除するには、Clear Foreign Configuration (**外部設定をクリアする**) を選択します。このオプションを選択すると、外部設定が含まれているディスク空間が解放され、新しい仮想ディスクで使用できるようになります。

選択した後、**次へ** をクリックします。

簡易設定ウィザードまたは詳細設定ウィザードの選択

- 1 **簡易設定ウィザード**または **詳細設定ウィザード**を使用して仮想ディスクを作成します。
- 1 **簡易設定ウィザード**では、RAID レベルのみを選択できます。次に、**簡易設定ウィザード**は、選択した RAID レベルを実装するユーザー用の仮想ディスク設定を選択します。ホットスベアを割り当てたオプションも用意されます。推奨設定を受け入れて簡単に仮想ディスクを作成するには、**簡易設定ウィザード**を選択します。

 **メモ:** コントローラによっては **簡易設定ウィザード**を使用できない場合があります。

 **メモ:** 利用できる物理ディスクが、SAS (Serial Attached SCSI) および SATA (Serial ATA) の両方のプロトコルを使用している場合、デルは **詳細設定ウィザード**を使用することを推奨します。

- 1 **詳細設定ウィザード**では、仮想ディスクのディスクプールの作成時に、どのプロトコルを使用するか指定できます。ディスクプールとは、1 台または複数台の仮想ディスクを作成できる RAID コントローラに接続しているディスクの論理グループです。RAID レベルの選択に加え、**詳細設定ウィザード**では、物理ディスクの選択、スパンの設定、キャッシングポリシー、その他の仮想ディスク属性の設定など、さらなる柔軟性を提供します。すべての仮想ディスク設定を指定する場合は、**詳細設定ウィザード**を選択します。


 **メモ:** **詳細設定ウィザード**を使用する場合は、RAID とハードウェア構成の知識が必要です。

選択した後、**次へ** をクリックします。

基本設定の選択

RAID レベル ドロップダウンメニューから仮想ディスクの RAID タイプを選択します。

- 1 **RAID-0** - データが物理ディスク間でストライプされます。RAID 0 では冗長データは保持されません。RAID-0 仮想ディスク内の物理ディスクが故障した場合にデータを再構築する方法はありません。RAID 0 では、読み取りおよび書き込みパフォーマンスが向上しますが、データの冗長性はありません。
- 1 **RAID-1** - データが物理ディスク間でミラーリング (複製) されます。物理ディスクが 1 台故障した場合、もう一方のミラーのデータを使用してデータを再構築できます。RAID 1 では、読み取りパフォーマンスとデータの冗長性が向上しますが、書き込みパフォーマンスは平均的なものです。
- 1 **RAID-5** - 物理ディスク間でデータをストライプし、パリティ情報を使用してデータの冗長性を維持します。物理ディスクが 1 台故障した場合には、パリティ情報を使用してデータを再構築できます。RAID 5 は、読み取りパフォーマンスとデータの冗長性が向上しますが、書き込みパフォーマンスが低下します。
- 1 **RAID-6** - 物理ディスク間でデータをストライプし、2 組のパリティ情報を使用することでデータの冗長性を強化します。1 台または 2 台の物理ディスクが故障した場合には、パリティ情報を使用してデータを再構築できます。RAID 6 では、データの冗長性と読み取りパフォーマンスがかなり向上しますが、書き込みパフォーマンスは低下します。
- 1 **RAID-10** - 物理ディスクのミラーリングとデータストライピングの組み合わせです。物理ディスクが 1 台故障した場合には、ミラーリングされたデータを使用してデータを再構築できます。RAID 10 では、読み取りおよび書き込みパフォーマンス、そしてデータの冗長性が向上します。
- 1 **RAID 50** - 単一アレイで複数の RAID 5 セットを使用するデュアルレベルアレイアレイ全体のデータを損失せずに各 RAID 5 で単一の物理ディスクの故障が発生する場合があります。RAID 50 は書き込み性能を向上させていますが、物理ディスクが故障し、再構築が行われた場合、性能は低下し、データ/プログラムアクセスが遅くなり、アレイ上の転送速度に影響を受けます。
- 1 **RAID 60** - RAID 0 のストレートブロックレベルストライピングを RAID 6 の分散ダブルパリティと組み合わせています。RAID 60 を使用するには、8 個以上の物理ディスクがシステムに必要です。RAID 60 は RAID 6 に基づいているので、各 RAID 6 セットの 2 個の物理ディスクがデータ損失なしに故障する場合があります。単一物理ディスクが 1 つの RAID 6 セット上で再構築を行っている間の故障はデータ損失を生じさせません。データ損失が発生するには全物理ディスクの半数以上が故障する必要があるため、RAID 60 は耐障害性を改善しています。


 **メモ:** 仮想ディスクのサイズは自動計算され、**サイズ** フィールドに表示されます。仮想ディスクのサイズは変更できません。

簡易設定ウィザードを使用している場合は、「[簡易設定ウィザードのみ - ホットスペアの割り当て](#)」へ進みます。

詳細設定ウィザードを使用している場合は、**次へ** をクリックして、「[詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの選択](#)」へ進みます。

簡易設定ウィザードのみ - ホットスペアの割り当て


仮想ディスクにホットスペアを割り当てるには、Assign a Hot Spare Disk (**ホットスペアディスクを割り当てる**) チェックボックスを選択します。割り当てない場合は、チェックボックスをクリアのままにします。

 **メモ:** ホットスペアとは、冗長仮想ディスクからデータを再構築するために使用できる未使用のバックアップ物理ディスクのことです。ホットスペアは、冗長 RAID レベルでのみ使用できます。ホットスペアには、物理ディスクのサイズ要件もあります。ホットスペアには、仮想ディスクに含まれている最小物理ディスクと同サイズまたはそれ以上の容量が必要となります。RAID レベルと使用可能な物理ディスクがこれらの要件を満たさないと、ホットスペアは割り当てられません。

次へ をクリックして、「[簡易設定ウィザードのみ - サマリの確認](#)」へ進みます。

簡易設定ウィザードのみ - サマリの確認


仮想ディスクを作成する前に、選択した仮想ディスクの属性を確認します。

 **注意:** I { ^NbNA@O>zfBXN™<B zfbXNF[^<B

表示されている属性を使用して仮想ディスクを作成するには、**終了** をクリックします。

または


選択項目を確認または変更するために、前の画面に戻るには、**戻る** をクリックします。変更せずに、ウィザードを終了するには、**キャンセル** をクリックします。

 **メモ:** 仮想ディスクの属性を細かく制御するには、**キャンセル** をクリックし、**詳細設定ウィザード**を使用して仮想ディスクを作成します。


詳細設定ウィザードのみ - 物理ディスクの選択

Select Physical Disks (**物理ディスクの選択**) 画面で、仮想ディスクに使用する物理ディスクを選択します。仮想ディスクに必要な物理ディスクの数は RAID レベルによって異なります。RAID レベルに必要な物理ディスクの最小数と最大数が画面に表示されます。

- 1 **プロトコル** ドロップダウンメニューからディスクプールで使用するプロトコル (Serial Attached SCSI (SAS) または Serial ATA (SATA)) を選択します。SAS ドライブは高性能で、SATA ドライブはこれよりコスト効率の良いソリューションです。

 **メモ:** ディスクプールとは、1 台または複数台の仮想ディスクを作成できる物理ディスクの論理グループです。プロトコルとは、RAID の実装に使用するテクノロジーの種類です。

- 1 **メディアの種類** ドロップダウンメニューからディスクプールで使用するメディアの種類 (**ハードディスクドライブ (HDD)** または **ソリッドステートディスク (SSD)**) を選択します。HDD では、データストレージに従来の回転磁気メディアが使用されているのに対し、SSD ではフラッシュメモリが実装されています。
- 1 **スパン長の選択** ドロップダウンメニューからスパン長を選択します。スパン長とは、各スパンに含まれる物理ディスクの数を指します。


 **メモ:** スパン長は RAID 10、RAID 50、および RAID 60 のみに適用されます。**スパン長の選択** ドロップダウンメニューは、RAID 10、RAID-50、または RAID 60 を選択した場合のみアクティブになります。

1. 画面の下部にあるチェックボックスを使用して物理ディスクを選択します。選択する物理ディスクは、RAID レベルとスパン長の要件を満たしている必要があります。すべての物理ディスクを選択するには、**すべて選択** をクリックします。


選択した後、**次へ** をクリックします。

詳細ウィザードのみ - 追加設定


キャッシュポリシーおよびストライブ要素のサイズを指定するには、Additional Settings (**追加設定**) 画面を使用します。仮想ディスクにホットスペアを割り当てることもできます。

 **メモ:** 仮想ディスクのサイズは自動計算され、**サイズ** フィールドに表示されます。ユーザーは、仮想ディスクのサイズを変更することはできません。

1. **ストライブ要素のサイズ** ドロップダウンメニューからストライブ要素のサイズを選択します。ストライブ要素のサイズは、ストライブされている各物理ディスク上のストライブが使用するディスク容量です。

 **メモ:** **ストライブ要素のサイズ** ドロップダウンメニューには、画面に最初に表示されたオプションより多くのオプションが含まれることがあります。すべてのオプションを表示するには、上下の矢印を使用します。


1. **読み取りポリシー** ドロップダウンメニューから読み取りポリシーを選択します。
 - **先読み** - コントローラは、データの検索時に仮想ディスクのシーケンシャルセクタを読み取ります。データが論理ドライブのシーケンシャルセクタに書き込まれている場合は、先読みポリシーによってシステムのパフォーマンスが向上する可能性があります。
 - **先読みなし** - コントローラは先読みポリシーを使用しません。データがシーケンシャルセクタではなくランダムに書き込まれている場合は、先読みなしポリシーによってシステムのパフォーマンスが向上する可能性があります。
 - **適応先読み** - 最新の読み取り要求でディスクのシーケンシャルセクタにアクセスした場合にのみ、先読みポリシーが使用されます。最新の読み取り要求でディスクのランダムセクタにアクセスした場合は、先読みなしポリシーが使用されます。
1. **書き込みポリシー** ドロップダウンメニューから書き込みポリシーを選択します。
 - **ライトスルー** - データがディスクに書き込まれた後で、コントローラから書き込み要求の完了信号が送信されます。書き込み完了ポリシーでは、データがディスクに書き込まれた後でのみ使用可能と見なされるので、書き戻しポリシーより優れたデータセキュリティを提供します。
 - **ライトバック** - データがキャッシュに入り、ディスクに書き込まれる前に、コントローラから書き込み要求の完了信号が送信されます。書き戻しポリシーでは、書き込みが高速に行われますが、システムエラーによってデータがディスクに書き込まれなくなるので、データの安全性は劣ります。
 - **強制ライトバック** - コントローラが動作するバッテリーを保有しているかに関わらず、ライトキャッシュが有効になります。コントローラにバッテリーがない場合は、停電時にデータが失われる可能性があります。
1. 仮想ディスクにホットスペアを割り当てるには、**Assign a Hot Spare Disk (ホットスペアディスクを割り当てる)** チェックボックスを選択します。ホットスペアとは、冗長仮想ディスクからデータを再構築するために使用できる未使用のバックアップ物理ディスクのことです。
1. **ホットスペアディスク** ドロップダウンメニューからホットスペアとして使用する物理ディスクを選択します。

 **メモ:** ホットスペアは、冗長 RAID レベルでのみ使用できます。ホットスペアには、物理ディスクのサイズ要件もあります。ホットスペアには、仮想ディスクに含まれる最小物理ディスク以上の容量が必要となります。RAID レベルと使用可能な物理ディスクがこれらの要件を満たしていない場合は、**ホットスペアディスク** チェックボックスが無効になっています。

選択した後、**次へ** をクリックします。

詳細設定ウィザードのみ - 概要の確認

概要 画面に、選択したオプションに基づいて仮想ディスクの属性が表示されます。

 **注意:** **終了** ボタンをクリックすると、保存しておく外部設定を除いて既存の仮想ディスクがすべて削除されます。削除された仮想ディスクのデータはすべて消失します。

表示されている属性を使用して仮想ディスクを作成するには、**終了** をクリックします。

または

選択項目を確認または変更するために、前の画面に戻るには、**戻る** をクリックします。変更せずに、ウィザードを終了するには、**キャンセル** をクリックします。

詳細設定

詳細設定を変更する場合は、**詳細設定** を使用します。

1. 左メニューから **ハードウェア構成** を選択します。
2. 右パネルで **詳細設定** をクリックします。
3. 設定するデバイスを選択します。

 **メモ:** 構成設定の変更に応じて、次のメッセージが表示される場合があります: **1 つ以上の設定を保存して有効にするには、再起動を行う必要があります。今すぐ再起動しますか? いいえ**を選択して追加の設定変更を行うか、オペレーティングシステムの配置などの他のタスクを実行することができます。すべての変更内容は次のシステム起

動時に適用されます。


USC - LCE ハードウェア構成では、ヒューマンインタフェースインフラストラクチャ(HII)を介して、他のデバイスの設定も可能です。HII は、デバイス設定の表示および設定を行うための UEFI 標準仕様です。以前は、それぞれ異なるプレブート設定ユーティリティを使用していた複数のデバイスに対しても、一つのユーティリティで設定できます。また、HII にはローカライゼーションも用意されています。つまり、BIOS の <F2> セットアップのように、以前は英語表記のみだったユーティリティも、各国語にローカライズされたバージョンが使用できる可能性もあります。

本リリースの USC - LCE では、サーバーのデフォルト設定にハードウェア構成の詳細設定でサポートされているシステム BIOS と NIC の 2 種類のデバイスのセットアップが含まれます。

- 1 **BIOS** セットアップは、現在のセットアップユーティリティ(システムのスタートアップ時に <F2> キーを押すことでアクセス可能)と非常に似ています。ただし、HII はシステム起動時に利用できるユーティリティの一部にしかアクセスできません。
- 1 **NIC** セットアップは、さまざまな NIC 属性を反映しており、一部はコントローラオプションの読み取り専用メモリ(ROM)で表示されます。しかし、これらの多くの属性は、オペレーティングシステムのユーティリティでしか変更できませんでした。


ご利用のシステム構成によっては、HII 設定仕様をサポートしているその他のデバイスの種類も詳細設定に表示される場合があります。**詳細設定**ウィザードにより、次の項目を設定できます。

- 1 システム BIOS 設定
- 1 Intel PRO/1000 XT サーバーアダプタ
- 1 Intel Pro/1000 PT デュアルポートサーバーアダプタ
- 1 Intel Gigabit VT 4 ポートサーバーアダプタ
- 1 Intel 10 Gigabit AF DA デュアルポートサーバーアダプタ
- 1 Intel Gigabit AT 4 ポートサーバーアダプタ
- 1 Intel 10 Gigabit XF SR デュアルポートサーバーアダプタ
- 1 Broadcom (デュアルポート) 10G KX4
- 1 Broadcom (4 ポート) GBE
- 1 Intel (4 ポート) GBE
- 1 Broadcom (デュアルポート) 10G KX4
- 1 Broadcom (デュアルポート) 10G SFP+
- 1 Broadcom (4 ポート) 10/100/1000 BASET
- 1 Intel (4 ポート) 10/100/1000 BASET
- 1 Intel (デュアルポート) 10/100/1000 BASET
- 1 Broadcom NetXtreme ギガビットイーサネット
- 1 Broadcom 5709C NetXtreme II GigE
- 1 Broadcom 5709C NetXtreme II GigE
- 1 Broadcom 57710 NetXtreme II 10GigE

 **メモ:** Integrated Broadcom NIC は、BIOS とデバイス自身に格納された設定の両方によって制御されます。この結果、内蔵 NIC の HII の **起動プロトコル** フィールドは、何の効果もありません。この設定は、**内蔵デバイス** 画面上の BIOS によって制御されます。内蔵 NIC を iSCSI または PXE ブートモードに設定するには、**System BIOS Settings (システム BIOS 設定)** を選択し、次に **Integrated Devices (内蔵デバイス)** を選択します。この画面では、各内蔵 NIC の一覧が表示されますので、適切な値を選択してください。起動機能なしの場合は **Enabled (有効)**、PXE 起動に NIC を使用する場合は **Enabled with PXE (PXE ありで有効)**、そして iSCSI ターゲットからの起動に NIC を使用する場合は **Enabled with iSCSI (iSCSI ありで有効)** を選択します。

ローカル FTP サーバーの設定

組織のユーザーがプライベートネットワークを使っており、外部のサイトつまり ftp.dell.com にアクセスできない場合は、ローカル設定の FTP サーバーからプラットフォームアップデートを提供できます。組織のユーザーは、ftp.dell.com からダウンロードする代わりに、ローカル FTP サーバーから Dell サーバーのアップデートやドライバにアクセスできます。

 **メモ:** プロキシサーバーを通して ftp.dell.com にアクセスできるユーザーには、ローカル FTP サーバーは不要です。

 **メモ:** [J FTP T[o[...VAbvf[g™†±mF...Ap..... ftp.dell.com をチェックしてください。

ローカル FTP サーバーの要件

ローカル FTP サーバーを設定する場合には、次の要件が適用されます。

- 1 ローカル FTP サーバーが匿名ユーザーアクセスをサポートしている。つまり、ローカル FTP サーバーがユーザー認証を要求しないこと。
- 1 ローカル FTP サーバーがデフォルトポート(21)を使用する。
- 1 ローカル FTP サーバーからアップデートにアクセスする前にシステム上でネットワークカードを設定するには、USC **設定**ウィザードを使用する必要があります。詳細については、「[USC 設定ウィザードの使用](#)」を参照してください。

Dell Server Updates DVDによるローカル FTP サーバーの生成

1. support.dell.com のデルサポートサイトからDell Server Updates ISO をシステムへダウンロードし、DVD に書き込みます。
2. 作成した DVD の repository(リポジトリ)フォルダに含まれるすべてのファイルをローカル FTP サーバー のルートディレクトリにコピーします。
3. ローカル FTP サーバーのルートディレクトリで catalog というフォルダーを作成し、ファイル catalog.xml.gz および catalog.xml.gz.sign を FTP サーバーのルートディレクトリから作成したばかりの catalog フォルダに移動します。
4. このローカル FTP サーバーをプラットフォームアップデートに使用します。

ローカル FTP サーバーにあるアップデートへのアクセス

組織のユーザーが OS 実装 ウィザードを使用する場合は、オンラインリポジトリを指定するためにローカル FTP サーバーの IP アドレスを知っている必要があります。

ユーザーがプロキシサーバーを通してローカル FTP サーバーにアクセスする場合は、プロキシサーバーに関する以下の情報が必要です。

1. プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス
1. プロキシサーバーのポート番号
1. プロキシサーバー上での認証に必要なユーザー名
1. プロキシサーバー上での認証に必要なパスワード
1. プロキシサーバーの種類

ローカル USB デバイスの設定

ftp.dell.com などの外部サイトにアクセスできないプライベートネットワークにいるユーザーに対して、ローカルで設定された USB デバイスを介してアップデートを提供することができます。

リポジトリとして使用する USB デバイスには、少なくとも 3 GB の空き容量が必要となります。

プロキシサーバーを通して ftp.dell.com にアクセスできるユーザーに、USB デバイスは不要です。

最新のプラットフォームアップデートを取得するには、デルのサポートウェブサイト(support.dell.com)からご利用のシステムの最新の Dell Server Updates ISO をダウンロードします。

Dell Server Updates DVD によるローカル USB リポジトリの生成

『Dell Server Updates DVD』によるローカル USB デバイス上でのリポジトリの生成:

1. support.dell.com のデルサポートサイトからDell Server Updates ISO をシステムへダウンロードし、DVD に書き込みます。
2. 作成した DVD の repository(リポジトリ)フォルダに含まれるすべてのファイルを USB デバイスのルートディレクトリにコピーします。
3. ローカル USB サーバーのルートディレクトリで catalog というフォルダーを作成し、ファイル catalog.xml.gz および catalog.xml.gz.sign を USB サーバーのルートディレクトリから作成したばかりの catalog フォルダに移動します。
4. この USB デバイスをプラットフォームのアップデートに使用します。

[目次に戻る](#)